

ミザールの傍ら

◎登場人物

- 佐田 雅樹(サダ マサキ) 43歳(2021年時点)
……オカルト雑誌社の記者
- 吉田 小百合(ヨシダ サユリ) 28歳(2021年時点)
……オカルト雑誌社の新人。
- 広瀬 奈美(ヒロセ ナミ) 28歳(2018年時点)
……彼氏が神隠しにあった女性。
- 横田 渚(ヨコタ ナギサ) 32歳(2018年時点)
……奈美の彼氏。
- 菊地 理衣(キクチ リエ) 28歳(2018年時点)
……奈美の友人。
- 川本 春菜(カワモト ハルナ) 19歳(2018年時点)
……浪人生。
- 川本 秋吉(カワモト アキヨシ) 56歳(2018年時点)
……春菜の父。
- 金城 賢治(カネシロ ケンジ) 30歳(2018年時点)
……川本に惚れた自称環境保護団体の員。
- 平坂 守(ヒラサカ マモル) 67歳(2018年時点)
……ペンション「北斗七星」のオーナー

○プロローグ

2021年。8月13日。

川のせせらぎの音、蟬の鳴き声。

ここは、深い森の中。

照明がぼんやりと佐田と吉田を照らす。

佐田と吉田の周りを天狗の面をつけ、黒布を羽織った人々が踊りながら囲む。

佐田と吉田は天狗達には気づいていない。

どこかへ向かおうとする佐田を吉田が引き止める。

吉田 先輩！

佐田 ……。

吉田 佐田先輩！

佐田 ……。

吉田 先輩はバカなんですか。

佐田 うるせーな！ バカって言う方がバカなんです！

吉田 子供の返しですよそれ。

佐田 大人です！ お前より十以上大人ですよー！

吉田 私より十以上年取ってるくせになんでわかんないんですか？

佐田 わかりますー！ わかっててやってるんですよー！

吉田 こんなしょーもない仕事なんかで死んだら洒落になんないですよ。

佐田 しょーもない言うな！

吉田 いいですか。先輩はドラマの見過ぎです。

佐田 そんな見てないって。

吉田 命を賭ける価値のある仕事なんてこの世にはないんですよ。

佐田 言うねー。

吉田 こんな三流雑誌の記事なんかに命かけるなんてあほらしすぎます。

佐田 あほいうならお前の方があほだろうが！

吉田 なんですか！

佐田 せっかくいい大学の大学院まで出てんののうちみたいな弱小編集社に

わざわざ入ってくんだからよ。

吉田 それは今、関係ないでしょう。

佐田 ありますー！

吉田 そもそも大企業に入ったって所詮代えのきく歯車なんですよ。あんな奴らシステムに組み込まれて死んでも同然です！ 私はそんなのごめんですから。

佐田 お前のその理論はもう聞き飽きたわ！

吉田 そっちらから話振ったんじゃないですか！

佐田 さとりの国のお姫様はほーんと困ったもんだ。
吉田 はい？
佐田 なんでもかんでもネットで知った気になって全くもう！ お前は世の中を知らなすぎるんだよ！
吉田 そりゃ先輩よりは知らないかもしれないですけど、先輩が今やろうと
していることが馬鹿な行為だつてことくらいはわかります！
佐田 だからそれは放つとけつて！
吉田 目の前で自殺しようとしてる人がいたら、そりゃ止めるでしょう。
佐田 もーうるせーな！ 俺はやるつったらやるんだ！
吉田 そんなんで神隠しにあつた人が帰ってくる保証ないんですよ！
佐田 うるせーな！ 神隠しなら相手は神様だか天狗だかだろう？
吉田 まあそうですね。
佐田 そいつに喧嘩売るつてんだから、こんくらいしねえと！
吉田 こんくらいつて頭おかしいですよ！ 微塵の科学要素も感じませんけど？
佐田 お前バカか！ 俺たちがオカルト信じないで誰が信じるつてんだよ！
吉田 いやいや、そういうネタを取材して記事にするのは仕事ですけど、その内容を信じる必要なんてないじゃないですか！
佐田 バツカだなー。
吉田 え？
佐田 それじゃあうちに来た意味ないぜ？ お姫様。
吉田 はあ？
佐田 お前、システムに組み込まれんのが嫌とか言いながら科学つていうシステムに飲み込まれちゃつてるじゃねえかよ！
吉田 ……科学はシステムじゃありません！
佐田 そうだな。科学は宗教だもんな？
吉田 科学つていうのは人類がなんでも反芻し証明してきたれつきとした事実です！
佐田 オカルトだつて何百年前かにやれつきとした真実だつたこともあるんだぜ？
吉田 ……わかりました。じゃあ私も行きます！
佐田 はあ？
吉田 私は先輩付きの部下ですから、先輩が行くつていうならついていきます。
佐田 なんでそうなるんだよ。さとりの国のお姫様は城から出ないようにとけつたの！ じいやに怒られんぞ！
吉田 なんですかじいやつて。バカにしないでください！
佐田 きゃんきゃんうるせーよ。
吉田 私も連れてつてください！
佐田 ……それこそバカだ。

吉田 バカって言う方がバカなんじゃないんですか？
佐田 揚げ足とんなよ。
吉田 ……私は嫌なんですよ。
佐田 何が？
吉田 このまま死ぬのが、です。
佐田 はあ？
吉田 正直うまく説明できないですけど、行かないといけないような気がして
るんです。
佐田 なんだそりゃ？
吉田 だからついていきます。
佐田 ……もう知らん！ 勝手にしろ！ ただし、俺は何の責任もとんねえ
からな！
吉田 先輩が責任取ってくれたことなんてないじゃないですか。
佐田 うるせーな。大体お前なんか強そうだから大丈夫だろ。
吉田 どういうことですか？
佐田 お前吉田小百合だろ？
吉田 はい？
佐田 なんか世界取れそうじゃん！
吉田 それはさおりです！
佐田 あれ？ そうか。
吉田 そうですよ。
佐田 まあでもやっぱりお前強そうだし。姫様だし。生意気だし。
吉田 先輩は悲壮感のある歌でも歌いながら歩いてりゃいいんですよ！
佐田 はあ？
吉田 佐田雅樹なんですから！
佐田 お前まさしさんバカにすんじゃねえよ！ 俺は雅樹！
吉田 はいはい。じゃあついていきますからね。
佐田 もういいよ。わかったよ。気合い入れろ！ 行くぞ！
吉田 はい。

暗転。

○第一幕

2019年。8月13日。

舞台は某県某所にあるペンション「北斗七星」のロビー。

机や椅子が配置されており、宿泊者はここで食事・休憩を行う。
上手奥には掲示用のホワイトボードがある。

その奥には従業員の控え室・厨房がある。(舞台外)

中央には階段があり、2階の宿泊者の部屋へと繋がっている。下手には玄関がある。看板にはペンション「北斗七星」の文字。壁の目めぐりカレンダーは8月13日を指している。

19時前。ロビーの椅子で寝ていた奈美。

ふと目が覚め、顔を上げる。

彼女の横には、腕時計。時間は19時で止まっている。

時計を手に取り、眺める。

コーヒーの方に目をやり、口をつける。

飲みながらぼーっと外を眺める奈美。

平坂は時折奈美を気にしながらも、食器を運ぶなど夕食の準備を進めている。

金城もコーヒーを口につけ、タバコ（銘柄指定なし）を吸いつつ小説を読んでいる。

そこへ理衣が外からやってくる。

理衣 え？ 奈美、あんた夕方からずーとここにいたわけ？

奈美 え？ あ、うん。

理衣 （隣に座りながら）何してたの？

奈美 うーん。何も。理衣は？

理衣 散歩。ほらっ、ここって圏外じゃん？

奈美 うん。

理衣 耐えられなくてさ、電波受信できるところを探してた。

奈美 あった？

理衣 なかったよ。

奈美 だろうね。

理衣 そもそも電源切れてたっていうね。

奈美 意味なっ！

理衣 （自分のスマホを指して）自分が如何にこいつ中心の生活を送ってたか思い知らされたよ。

奈美 でもそれがいいんじゃないん？

理衣 はあ、テレビもねえ、ラジオもねえ、2時間行っても電波がねえ！

奈美 デジタル人間の理衣には不向きだったかな。

理衣 そんなことないよ。たまにはこーして何もないところでのんびりするのも悪くない。

奈美 でもパソコン持ってきてたでしょ？

理衣 しょーがないじゃん！ お盆明けにプレゼン入っちゃって資料作んな

きゃいけないんだから！

奈美 広告屋さんは大変ですね。

理衣 休み明けにプレゼン設定してくるって頭おかしいよね。そりやお得意は休みだらうけどさ！ うちらは準備があるわけよ！ 休日返上で働けっ

てその時点で言ってるようなもんじゃん。そのくせさあ労働時間がどーだの……。

奈美 (遮って) やめてくんない仕事の話。現実引き戻される。

理衣 あ、ごめんごめん。(時計に気づいて) あれ、何その時計? そんなん持ってたっけ?

奈美 え? いや、起きたらここにあった。

理衣 誰の?

奈美 わかんない。

理衣 ちよつと見せて?

奈美 うん。(時計を渡す。)

理衣 壊れてんじゃん。

奈美 え?

理衣 19時から動かない。

奈美 (覗き込んで) え? あ、本当だ。

理衣 壊れたから置いてったんかね。はいつ。(時計を返す。)

奈美 そうか。(時計をポケットにしまう。)

理衣 しまうの?

奈美 うん。

理衣 壊れてんのに?

奈美 なんか気になって……。それに直せるかもしれないし。

理衣 あ、そう。(手をあげて平坂に) すいませーん。

平坂 はい。

理衣 灰皿もらっていいですか?

平坂 はい。少々お待ちくださいねー。(灰皿を取りに行く。)

理衣 (奈美に) 吸っていい?

奈美 順番逆じゃない?

理衣 え?

奈美 灰皿頼む前でしょ普通。吸っていいか聞くの。

理衣 ごめんごめん。

平坂 お待たせしました。(灰皿を理衣に渡す。)

理衣 ありがとうございます。

平坂 ごゆっくりどうぞ。(夕食の支度に戻る。)

理衣 改めまして、吸っていい?

奈美 いいけどさ。

理衣 奈美ってタバコ嫌いだっけ?(自分のタバコ、KOOLを取り出しながら。)

奈美 そんなことないよ。

理衣 じゃあ何でそんな嫌な顔すんのー?

奈美 渚と銘柄が一緒なんだよね。

理衣 え?

奈美 渚もK O O L吸ってた。
理衣 ……そっか。横田くんもこれだったっけ？ なんか、ごめん。
奈美 いや、私こそごめん。
理衣 え？
奈美 そんなちっちゃなことですら気になってしょうがないんだよね。
理衣 吸うのやめようか。
奈美 いやいや、どうぞ、吸ってください。
理衣 (タバコに火をつけて) ごめんねー。昔からこれなんだ私。吸いやすくてさ。
奈美 メンソールなんだっけ？
理衣 そうそう。名前の通り冷たい？ 感じ？
奈美 ふーん。

そこへ春菜が2階からやってくる。
春菜の方を見る奈美と理衣。
同様に視線を春菜に送る金城。

春菜 (平坂へ) すいません。
平坂 はい。
春菜 コーヒーいただけますか？
平坂 はい。アイス？ ホット？
春菜 アイスで。
平坂 ミルクとガムシロップは？
春菜 お願いします。
平坂 はい。少々お待ちください。(コーヒーを作りに行く。)

春菜、机に座り、鞆から筆記用具、参考書を取り出し勉強を始める。

奈美 ごめんね。
理衣 え？
奈美 変なことに付き合わせて。
理衣 いいっていいって。どうせ暇だったし。私も無関係じゃないし。家にいても仕事するだけだしね。っーかさつきから奈美、謝りっぱなし！
奈美 ごめん。
理衣 ほらまたー！
奈美 そうだね。
理衣 その様子じゃ、ちつとも吹っ切れそうにないね。
奈美 ……うん。
理衣 まあそりゃ吹っ切れないよ。私も同じ立場だったら吹っ切れないもん。

奈美 でも理衣は強いから。
理衣 ないない、全然そんなことないって。絶対吉田沙保里の方が強いよ！
奈美 なにそれ？
理衣 いや、ただの冗談だって。
奈美 いや私の言ってる強さは、そーゆー……。
理衣 (遮って) わかっているわかってるって。急に彼氏が行方不明だもんね？
吹っ切れない吹っ切れない。

一瞬、理衣の方を見る春菜。

奈美 もう1年も経ったんだよ？

理衣 まだ1年だよ！

奈美 1年も経ってたら渚はもう……。

理衣 大丈夫！ 横田くんは生きてるよ。(タバコの火を消す。)

奈美 そうかな？

理衣 だからここに来たんでしょ！

奈美 ……うん。

理衣 会ったら殴ってやるんだ。

奈美 え？

理衣 だってさ、死ぬんだったら忘れようもあるけど、いなくなったら忘れられないじゃん！

奈美 う、うん。

理衣 だから、「奈美を心配させやがってこのやろう！」って言って殴ってやるんだ。

奈美 理衣が殴るの？

理衣 だって奈美は殴らないでしょ？ だから私が殴るの！（力こぶを作つて。）

奈美 (笑って) なにそれ？

理衣 だからその分、奈美は抱きつきなさい！

奈美 なにそれ。

理衣 大事なのはポジティブシンキングだよ！ 死んだ魚みたいな目してたら世界が死んで見えちゃうからね！

奈美 (笑って) なにそれ？

理衣 今私いいこと言ったっぽくない？

奈美 理解不能！

理衣、2本目のタバコに火をつける。

平坂、春菜にコーヒーを出す。

その様子を眺める春菜と理衣。

平坂 お待たせしました。

春菜 ありがとうございます。

平坂 もう少しでご夕食の準備ができますので。

春菜 あ、はい。

平坂 ごゆつくりどうぞ。(夕食の支度に戻ろうとする。)

春菜 あ、あの！

平坂 はい？

春菜 こちらのペンションって1年中営業してますか？

平坂 はい？ ええ、まあ。

春菜 あの、私、本日宿泊予定の川本春菜と申しますが……。

平坂 はい。存じております。

春菜 この1年で川本秋吉という者は、宿泊しておりませんか？

平坂 うーん、色んな方が宿泊されますからね。過去の記録を確認してみないとなんとも……。

春菜 確認して頂くことはできますか？

平坂 プライベートなことですので……。

春菜 父なんです！

平坂 はい？

春菜 1年前から行方不明なんです。

平坂 ……あの神隠し事件の？

春菜 そうです。

平坂 そうでしたか。それでしたらもし宿泊されていれば、私の記憶に残っているはずですので……。

春菜 来ていませんか……。

平坂 ええ、残念ながら。

春菜 そうですか……。

平坂 しかし、記憶違いという可能性もありますから、一応名簿をお調べしましょうか。

春菜 は、はい。お願いします！

平坂 えーっと、お調べするのは、川本秋吉様でよろしいでしょうか。

春菜 はい。三本がわのかわにブックの本で川本。季節の秋に大吉小吉の吉で秋吉です。

平坂 承知しました。では、お調べしてまいりますので、少々お待ちくださいね。

平坂、去る。

顔を見合わせる春菜と理衣。

理衣がタバコの火を消し、立ち上がる。

理衣 (春菜の方へ向かいながら) ちょっとすいませーん。

奈美、後に続く。

春菜 はい？

理衣 ごめんごめん、学生さん？

春菜 は、はあ。

理衣 聞くつもりなかったんだけど、話聞こえちゃってさ。

春菜 え？

理衣 私の友達の彼氏も1年前に行方不明になってるんだわ。

春菜 ええ！

理衣 神隠し事件ってやつ？

春菜 はい。

奈美 もしよかったらお話聞かせてもらえませんか？ 私、広瀬奈美と言います。

理衣 私、菊地理衣ね。

春菜 広瀬さんと、菊地さん……。

奈美 えーっと、何から聞けばいいですかね……。

理衣 先に奈美の話をしてあげたら？ 話しやすくなるかも。

奈美 あ、う、うん。

春菜 あ、そ、それじゃあお願いします。

奈美 うーん。どう話そうかな。

理衣 思いつくままでもいいと思うよ。

奈美 うん。……去年の今日、私たちはこのペンションに来てました。私と、

渚、あ、彼のことです。後、ここにいる理衣の3人で……。

春菜 3人で……。

奈美 はい。で、理衣は今日みたいに散歩に出て……。私と渚の2人で喋

ってたらちよつと喧嘩みたいになっちゃって……。渚、部屋に籠っちゃっ

たんです。

春菜 はあ。

理衣 私がロビーに戻ってきたらぼーっとしてる奈美がいてさ、私喧嘩のこ
となんて聞かされてなかったから何の気なしにちよつとだべってね。あー

もう夕飯だねーなんて言ったら。

奈美 記憶なくしちゃったんですよね。

理衣 そうそう、私も記憶なくしちゃってさ。気づいたら病院のベッドの上。

春菜 お2人とも記憶を……。

理衣 そうそう。横田くん……あ、奈美の彼氏ね。も、一緒に寝てんのかと

思ったら行方不明だつて。

奈美 このペンションの周りを百人体制で捜査したんだけど、見つからなか
ったんです。

理衣 うちらも気づいたら病院のベッドだし、あ、この麓の病院ね。なんか

うちら病院の前で転がってたんだって。なんか気持ち悪いよね。

春菜 ああ！ 私も、いました！ その日ここに！

理衣 え？

奈美 本当ですか？

そこへ平坂が戻ってくる。

平坂 あーお取り込み中ではありません。川本様。今、調べてまいりました。

春菜 それで？

平坂 申し訳ございません。去年の今日以降宿泊された形跡はありませんでした。

理衣 だよなー。

平坂 広瀬様と菊地様も申し訳ございません。今朝お尋ね頂いた横田様の件、お力になれずに……。

奈美 いえ……。

理衣 あの、平坂さんさ。

平坂 はい？

理衣 その、やっぱりしょっちゅう来るんですか？ こう行方不明者探しの人みたいなのは……。

平坂 (困った顔をして) そうしょっちゅうということではありませんが、たまにございます。何分、当ペンションの売りが完全に社会との接触を断てるということでございますから……。ただ、神隠しなどは、都市伝説だとは考えております。

奈美 あ、すいません。別に管理人さんを責めているわけでは……。ほらっ

理衣！

理衣 あ、すいません。

平坂 いいんですよ。実際自治体の方からも立ち退いてくれと言われてるんです。ここもそろそろ潮時ですかねー。

金城 (大声で) もつたいないですよねー。こんなにいいところなのに！ 社会が許さないんですかね。この存在を！ システムは外れものを嫌いますからね。

全員、金城の方を見る。

金城 ああ、失礼しました。私、山を守る会、会員の金城と申します。

理衣 は、はあ。

金城 私、日本全国のこういった施設や森林を保護する活動をしておりまして……。こういう環境を大事にしている施設を切り開く輩が許せないんですよ。どうせ変な都市伝説を言いがかりにして、ここを切り開こうって腹ですよ。

理衣 そうなんですか。

金城 ご興味、ありませんか？ 私と一緒に山を、森を守りましょう？

平坂 金城さん、勧誘はちよっと。

金城 別にカルトに入信させようってわけじゃないんですからいいでしょう。まあ、そうおっしゃるなら今はやめておきましょう。パンフレットもご覧いただけます、もし興味を持たれたら是非、声をかけてください。

春菜 はあ。

金城 すいません平坂さん。そろそろ、夕飯の時間かと思えますけども。

平坂 ああ、はい。そうですね。もう準備はできておりますので、あと少々お待ち下さい。では、皆様も少々お待ち下さい。今ご準備しますので。

金城 そうですね。じゃあ今のうちにトイレにでも行ってきましょうかね。

平坂、会釈をして去る。

金城、春菜の方を見る。目を背ける春菜。

金城、トイレへと席を立つ。

理衣 何今の？ こわっ！

奈美 同じペンションで寝るのやだね。

春菜 そうですね。

奈美 もしよかつたら私たちの部屋来てもいいからね。

春菜 ありがとうございます。

理衣 で、ごめんごめん。話逸れちゃったね。

奈美 川本さんの話を聞かせてもらえないかしら。

春菜 あ、はい。私は……あの日は私もここに泊まって。急に目の前が真っ赤になったと思ったら、みなさんと同じように病院の前で……。それで、父が行方不明だと聞かされました。捜索隊のこととかも聞きましたけど、手がかり1つなかったって……。

理衣 全く同じだね。

春菜 でも、申し訳ないんですが、私、お二人のこと覚えてないんです。

理衣 いやいや私らも覚えてないからね。記憶障害のなんか、あれかもね。

春菜 はい。

奈美 あの、もし差し支えなければ、覚えているところまでお話を聞かせてもらっていいでしょうか？

春菜 あ、はい。どこかのペンションに家族で行くのは、毎年恒例で……。でも、去年は父と私の2人きりでした。

溶暗。途中、照明のミスかのように舞台が赤く染まる。
そのまま暗転。

○第二幕

舞台は神隠し事件当日2017年のペンション「北斗七星」のロビー。

壁の日めくりカレンダーは8月13日を指している。

昼過ぎ。コーヒーを飲みながら、ロビーの椅子で仲よさげに話している奈美と渚。渚は時折KOLを吸う。

渚の腕には先ほど奈美が拾った腕時計。(この時点で時計は壊れていないので、同じ時計が2種類あることが望ましい。)

平坂は時折客を気にしながらも、食器を運ぶなど昼食の片付けを進めている。

春菜は参考書を広げて勉強をしている。

金城もコーヒーを口につけ、タバコを吸いつつ小説を読んでいる。時折、春菜の方に視線を動かす。話しかけようとするそぶりはするものの、できない。

そこへ秋吉が外からやってきて、春菜の近くに座る。

周りは2人の会話が聞こえつつも、口出しはしない。

秋吉 なんだ。こんなとこまで来て勉強か？

春菜 もう直ぐ夏の模試があるから。

秋吉 そうか。

春菜 うん。

秋吉 外の空気はいいぞ。ちよつとは外を歩いてみたらどうだ？

春菜 いい。

沈黙。

秋吉 いやあ、でも、こんないいペンションが見つかってよかったな。今までで一番いいんじゃないか？

春菜 別に。

秋吉 だってここはケータイも繋がらないもんな。

春菜 不便だね。

秋吉 さっき父さんどこまで圏外なんだろうって歩いてみたんだよ。

春菜 へえー。

秋吉 きつとあれは来たときに通ったあの長いトンネル抜けるまで戻らんな。

春菜 ふーん。

沈黙。

秋吉 何がそんなに不満なんだ？

春菜 うるさいなー。勉強してるんだけど。

秋吉 うるさいとか、親に向かって言うんじゃない。

春菜 うるさい！

秋吉 おい！ 春菜！ 何が不満だつてんだ！

春菜 ……わかつてるくせに。

秋吉 仕方ないことだろ！

春菜 そうかな。

秋吉 お前ももう高校3年生なんだ。わかるだろう？

春菜 ……お母さんは私とお父さんを捨てたんでしょ？

秋吉 そんなわけないだろう？ お母さんは自分がデザイナーとしてもう一段階ステップアップするために……。

春菜 離婚する必要ないじゃん！

秋吉 ……仕方ないんだよ。

春菜 仕方ない仕方ないって、お父さんはいつもそう！ 自分の意見とかないわけ？

秋吉 俺はお前とお母さんが幸せならそれで……。

春菜 何それ！ バカみたい？ 結局お母さんに利用されただけじゃん！

私を育てて18年間、バカみたいに毎朝早起きして会社行って夜中遅くに帰ってきて、休日は家事やらされて、挙句捨てられるなんてみつももなさすぎて見てらんないよ！

秋吉 春菜……。

春菜 だから私は勉強するの！ 絶対いい大学入って、お母さん側の人間になるんだ。お父さんみたいな社会の弱者にはなりたくない！

秋吉 お父さんは別に春菜がいい大学行けなくなつて構わないと思ってるよ。むしろわざわざ東京に出る必要なんて……。

春菜 東京出ないで何ができるんだよ！ 本当お父さんって何にもわかつてないよね！ だから嫌いなのだ！

秋吉 ……。確かに、お父さんは春菜より知識はないかもしれない。でも、お前の倍は生きてるんだ。経験はお父さんの方があつた。

春菜 何の役に立つのそんな経験！

秋吉 自分を等身大に見られるようになる。

春菜 は？ 何言つてんの？ 意味わかんない？

秋吉 今はわからなくてもいいさ。

春菜 あー。何父親ぶつてんの？ そうやって大人は論破されそうになるとすぐに経験経験だ！ せっかくこんないいところに来てるのに気分悪いよ！

秋吉 落ち着きなさい。

春菜 とにかく！ 私は東京行くし、それでお父さんともお別れだから！

秋吉 本当に、お前は母さん似だなあ。

春菜 むしろあんたに似なくてよかったわ！ てゆーかあれじゃない？ 私、実は母さんがどっかの業界人のイケメンとの間に生まれた子だったりして。

秋吉 何てこと言うんだ！

春菜 ……お母さんはカッコウなんだね。

秋吉 何？

春菜 ほら、そんなことも知らない。

秋吉 どういうことだ？

春菜 カッコウは托卵って言って他の鳥に卵を育てさせるの。哀れなお父さんみみたいな鳥にね。

秋吉 そうか……。

春菜 だから私あんたを追い出して巣立つんだから！ 邪魔しないでよ

ね！ 私、部屋で勉強するから。あんたは夕食の時間まで外で美味しい空気でも吸ってなよ。

秋吉 じゃあ、そうさせてもらうよ！

春菜、参考書を片付けて2階に上がる。

春菜を目で追う金城。

秋吉、去る。

渚、タバコの火をつける。

渚 すごいな。

奈美 びっくり。

渚 まあ、そういう時期もあるか。

奈美 そんぐらいの時期じゃない？

渚 何が？

奈美 タバコ、吸い出すの。

渚 ああ、反抗期ってこと？

奈美 そう。

渚 タバコとお酒は二十歳になってから。俺はそうだったね。

奈美 へえ。嘘ばっか。

渚 嘘じゃないって。

奈美 なんか決めてるの？

渚 何が？

奈美 吸い過ぎないルール。

渚 ああ、あるよ。

奈美 何？

渚 1日1箱までってね。

奈美 まあまあ吸ってない？

渚 そこは許してくれよ。(タバコの箱を覗いて)だから今日は後1本。え？

マジで？ もう後1本？

奈美 無意識に吸いすぎだよ。
渚 うわー。何本か損した気分。
奈美 やっぱ空気が美味しいとタバコも美味しいんじゃない？
渚 だよなー。

渚、タバコの火を消す。

渚 どっち派？

奈美 え？

渚 俺はお父さん派かな。

奈美 ああ、さっきの？ 私も。そうかな。

渚 おお、ちよつと意外だね。

奈美 実際私らもさ、毎日毎日大して変わらない暮らししてるけど、それもまた人生っていうかさ。

渚 大人だね。

奈美 大人でしょー。いや、わかるよ。あの子の言ってることも、でもさ、あの子はピチピチのJK。私はギリギリのアラサー。考え方も変わるでしょ。あの子もそのうち大人になるのよ。

渚 なんか達観してるなー。

奈美 そう？

渚 俺も叶うことならあのJKみたいに力強く生きたいって思うよ。

奈美 おじさんが？

渚 そう、残念なことにもう俺おじさんなんだよな。

奈美 じゃあそろそろ身い固めないとね。

渚 そうだよな。

奈美 え？

渚 え？

奈美 え、渚？ もしかしてこの旅行中に話があるって言ってたのって。

渚 うん、そのことなんだけど。

奈美 え？ え？ え？ うん。え？ ちよつと待って。心の準備が！ え？ 待って？ 深呼吸していい？ スー……。ハ……。(大きく体を使って深呼吸) スー……。ハ……。

渚 あのさ。

奈美 うん。

渚 ちよつと、言いづらんだけど、……別れよう。

奈美 うん？

渚 ……本当にごめん。

奈美 え？

渚 許してくれとは言わない。でももう決めたんだ。

奈美 え？ え？ え？ え？ ちよつと待って。ちよつと待って。ついて

いけない。ドーユーこと？

渚 ほら、奈美ももうアラサーだし、大切な時期だからさ。俺みたいのとはさっさと別れて……。もつといい男を見つけてくれ。

奈美 いやいやいや！ じゃなくて！ 「私ももうアラサーだし、大切な時期だから結婚しよう！」でしょ普通！ なんて別れ話になるわけ？ 全然わかんない！

渚 うん。うん。確かに唐突だった。それは謝る。

奈美 じゃあ。

渚 でもごめん。別れよう！

奈美 やだ。

渚 うーん。やだって言われてもな……。

奈美 なんでよ。

渚 なんでって。

奈美 いきなりそんなこと言われて納得できるわけないじゃん！

渚 そうだよな。

奈美 そうだよ！

渚 うーん。だからさ、俺、そう、他に好きな人できた。

奈美 はあ？

渚 だから、奈美とはもう一緒にいけない。

奈美 誰？

渚 誰って？

奈美 相手はどこの誰なのよ！

渚 言う必要ないでしょ。

奈美 無理。言って！

渚 なんでそんなこと言わなくちやいけないんだよ！

奈美 やだ！ 無理！ そっちと別れてよ！

渚 ごめん。……もうそっちの親にも挨拶しちゃってるんだ。

奈美 はあ？ それ本気で言ってるの？

渚 ……うん。

奈美 なんでこんなペンションまで来てそんな話するの！

渚 最後だからさ、なんかいい感じのとき、来たかったんだ。

奈美、渚をビンタする。

渚 いたっ！

奈美 バーカ！ バーカ！ 渚のバーカ！ バーカ！ バーカ！ バーカ！

渚 落ち着けて。

奈美 やだからね！ 絶対別れないから！

渚 ごめん！ わかってくれ！

奈美 ……。バカみたい。プロポーズされると思って期待して……。もうっ

バカ！ バカ！ どつか行け！ バカ！

渚 うん。ごめん。それじゃちょっと部屋で休んでるよ。

奈美 バカ！

渚 奈美もちよっと頭冷やして、な。俺の結論は変わらないから。じゃあ、また後で。

奈美 バカ……。

タバコの箱が置き去りになる。

奈美、机に突っ伏す。

しばらくして平坂がコーヒーを持ってくる。

平坂 美味しいコーヒーは心を落ち着かせますよ。

奈美 あ、すいません。

平坂 人生山あり谷あり、と見せかけて案外平坦なものです。では、ごゆっくりどうぞ。

金城 すいません、平坂さん。

平坂 はい。

金城 僕にもコーヒーいただけますか？

平坂 かしこまりました。

平坂、コーヒーを持ってくる。

平坂 金城様はブラックでよろしかったですよね？

金城 ああ、はい。

平坂 それにしても、告白の機を逃しましたね。

金城 え？

平坂 川本春菜さん、お綺麗ですもんね。

金城 あの、そーゆーんじゃないんですけど。

平坂 あれ？ 違いましたか？ 端から見るとそのように見受けられましたか。

金城 いや、確かにちよっと気になるくらいはありますよ。

平坂 お知り合いですか？

金城 一方的に僕が知ってるだけですよ。

平坂 どうして知ってらっしゃるのですか？

金城 彼女が通ってる予備校で臨時講師してるんですよ僕。まあ校舎が違うんで模試の時に見かけたくらいですけどね。

平坂 偶然というのは、あるものですね。

金城 そうですね。非常にびっくりしました。

平坂 こんな偶然さうさうないのですから声をかけてみればよろしいのに。
金城 うーん。

平坂 それが許されるのがペンションというものですよ。

金城 そりゃ、最初は、そう思いましたよ。でももうやめました。

平坂 どうしてまた？

金城 人が悪いですね。さつきの親子ゲンカ聞いてたでしろう？ あんな子、僕と釣り合うわけないじゃないですか。見てるだけで充分です。

平坂 そうでしょうか？

金城 あの子はきっと頑張っているいい大学入っているいい就職先入って……。そんなトントン拍子な人生を送るんすよ。

平坂 そういものですか。

金城 そうですよ。それに比べて俺は就職して2年で辞めてフリーターですからね。完全に彼女が嫌うタイプです。

平坂 そういものでしょうか。

金城 そうですよ。

平坂 でも環境保護の活動なんて、ご立派なことをされてるじゃないですか。金城 ああ。そんな大層なものじゃないですよ。ただ、この場所を守りたいだけです。

平坂 充分ご立派ですけどね。

金城 そうですか。

平坂 私、こう、本当に何もなくてで日々生活しておりますので、皆さんそれぞれ、輝いて見えます。こうしてたまーにお話をさせていただくのがじいいのささやかな楽しみなんですよ。

金城 はあ。

平坂 私から見れば皆さん同じ。等しく同じです。じいには輝く星の等級とかはわかりませんからね。

金城 はあ？

平坂 (笑う。)

金城 平坂さんってなんか仙人みたいですよねー。

平坂 たまに言われますよ。

金城 やっぱり言われるんですね。

平坂 男はね、70過ぎて嫁さんも子供もいないと、仙人になるそうですよ。金城 初めて聞きましたよ。何ですかそれ？ 30過ぎて童貞だと魔法使いつてのは聞いたことがありますけど。

平坂 (真顔で) そうなんですか？

金城 いや、嘘に決まってるじゃないですか！ そんな簡単に魔法使いになれるんですよ。

平坂 そうですか。じゃあ仙人も嘘です。そもそも私まだ70過ぎてないですしね。

金城 ああ、そうですか。あ、でもね、輝いて見えなくなる星があるのは本当ですよ。

平坂 そうなんですか？

金城 そうなんです。

平坂 へえ。

金城 このペンションの名前って平坂さんが付けたんですよ？

平坂 そうですよ。北斗七星。

金城 （宙に北斗七星を描きながら）北斗七星の、こうしっぽの先から2番目にある星をミザールって言ってますよ。その傍らにある星を、死兆星とか寿命星って言ってますよ。昔の人はこの星が見えなくなると死が近づいたって思ってたらしいです。

平坂 お詳しいですね。

金城 北斗の拳ってご存知ですか？ 超有名漫画です。その関連で知りました。まあ漫画では史実と逆で見えると死期が近いんですけどね。

平坂 大丈夫ですよ金城さん。

金城 はい？

平坂 私にはまだあなたがしっかり見えていますから。

金城 いやいや、当たり前じゃないですか！

平坂 それでは私は、夕食の準備がございますので。

金城 あ、はい。

金城は再び小説を手に取り、しばらく沈黙が流れる。

ぼーっと外を眺める奈美。

そこへ理衣が現れる。

理衣 え？ 奈美、あんた昼からずーっとここにいたわけ？

奈美 え？ あ、うん。

理衣 （隣に座りながら）何してたの？

奈美 うーん。何も。理衣は？

理衣 散歩。ほらっ、ここって圏外じゃん？

奈美 うん。

理衣 耐えられなくたってさ、電波受信できるとこ探してた。

奈美 あった？

理衣 なかったよ。

奈美 だろうね。

理衣 そもそも電源切れてたっていうね。

奈美 意味なっ！

理衣 （自分のスマホを指して）自分が如何にこいつ中心の生活を送ってたか思い知らされたよ。

奈美 でもそれがいいんじゃない。

理衣 はあ、テレビもねえ、ラジオもねえ、2時間行っても電波がねえ！

奈美 デジタル人間の理衣には不向きだったかな。

理衣 そんなことないよ。たまにはこーして何も無いところでのんびりする

のも悪くない。

奈美 でもパソコン持ってきてたでしょ？

理衣 しょーがないじゃん！ お盆明けにプレゼン入っちゃって資料作んなきゃいけないんだから！

奈美 広告屋さんは大変ですね。

理衣 休み明けにプレゼン設定してくるって頭おかしいよね。そりやお得意は休みだろうけどさ！ うちらは準備があるわけよ！ 休日返上で働けてその時点で言ってるようなもんじゃん。そのくせさあ労働時間がどーだの……。

奈美 (遮って) やめてくんない仕事の話。現実には引き戻される。

理衣 あ、そう。(手をあげて平坂に) すいませーん。

平坂 はーい。

理衣 灰皿もらっていいですか？

平坂 はーい。少々お待ちくださいねー。(灰皿を取りに行く。)

理衣 (タバコの箱を見つけて奈美に) あ、これ、吸っていい？

奈美 それ渚のじゃん。

理衣 もーらいつ！ 1本残ってんじゃん！(火をつける。)

奈美 あーあ。

溶暗。先ほどよりはつきりと舞台が赤く染まる。

暗転。

○第二幕

2020年。

舞台は第一幕と全く同じロビー。

壁の日めくりカレンダーは変わらず、8月13日を指している。

19時前。ロビーの椅子で寝ていた奈美。

ふと目が覚め、顔を上げる。

彼女の横には、腕時計。時間は19時で止まっている。

時計を手に取り、眺める。焦って立ち上がり、周囲を見渡す奈美。

平坂は時折奈美を気にしながらも、食器を運ぶなど夕食の準備を進めている。

金城もコーヒーを口につけ、タバコを吸いつつ小説を読んでいる。

そこへ理衣が外からやってくる。

受け答えが少ししどろもどろになる奈美。

理衣 え？ 奈美、あんた夕方からずーとここにいたわけ？

奈美 え？ ああ、ああ、あああ、うん。

理衣 (隣に座りながら) 何してたの？
奈美 うーん。いやいや、何も。理衣は？
理衣 散歩。ほらっ、ここって圏外じゃん？
奈美 うん。
理衣 耐えられなくなつてさ、電波受信できるところを探してた。
奈美 ……あつた？
理衣 なかつたよ。
奈美 そうだよね。
理衣 ん？ そもそも電源切れてたつていうね。
奈美 意味なっ！
理衣 (自分のスマホを指して) 自分が如何にこいつ中心の生活を送つてたか思い知らされたよ。
奈美 でもそれがいいんじゃない。
理衣 はあ、テレビもねえ、ラジオもねえ、2時間行つても電波がねえ！
奈美 え？
理衣 知らない？ 吉幾三。まあたまにはこーして何も無いところでのんびりするの悪くない。
奈美 あれ？(考え込む奈美。)
理衣 とか言つて、PC持つてきちゃつてるんだけどね！ しよーがないじゃん！ お盆明けにプレゼン入っちゃつて資料作んなきゃいけないんだから！
奈美 広告屋さんは大変だもんね。
理衣 休み明けにプレゼン設定してくるって頭おかしいよね。そりやお得意は休みだろうけどさ！ うちらは準備があるわけよ！ 休日返上で働けてその時点で言ってるようなもんじゃん。そのくせさあ労働時間がどーだの……。
奈美 (遮って) やめてくんない？
理衣 あ、ごめんごめん。(時計に気づいて) あれ、何その時計？ そんなん持ってたっけ？
奈美 え？ いや、昨日から起きたらここにあつた。
理衣 昨日？ 昨日うちらここにいないじゃん？
奈美 え？

奈美、カレンダーを見る。
2020年。

奈美 2020年？
理衣 誰の？
奈美 え？
理衣 いや、時計。誰の？

奈美 あ、うん。わかんない。
理衣 ちよつと見せて？
奈美 うん。(時計を渡す。)
理衣 壊れてんじゃん。
奈美 え？
理衣 19時から動かない。
奈美 え？ うん。
理衣 壊れたから置いてったんかね。はいっ。(時計を返す。)
奈美 そうか。(時計をポケットにしまう。)
理衣 しまうの？
奈美 うん。
理衣 壊れてんのに？
奈美 あ、なんか気になって……。
理衣 あ、そう。(手をあげて平坂に) すいませーん。
平坂 はい。
理衣 灰皿もらっていいですか？
平坂 はい。少々お待ちくださいねー。(灰皿を取りに行く。)
理衣 (奈美に) 吸っていい？
奈美 うん。
理衣 ごめんごめん。灰皿頼む前だよね普通。吸っていいか聞くの。
奈美 うん。
平坂 お待たせしました。(灰皿を理衣に渡す。)
理衣 ありがとうございます。
平坂 ごゆっくりどうぞ。(夕食の支度に戻る。)
理衣 改めまして、吸っていい？
奈美 いいけど。
理衣 奈美ってタバコ嫌いだったっけ？(自分のタバコ、KOOLを取り出しな
がら。)
奈美 そんなことないよ。
理衣 じゃあ何でそんな嫌な顔すんのー？
奈美 嫌な顔っていうか。言わなかったっけ？ 渚と銘柄が一緒なんだよね。
理衣 ああ。……そっか。横田くんもこれだったっけ？ なんか、ごめん。
奈美 いや、私こそごめん。
理衣 吸うのやめようか。
奈美 いやいや、どうぞ、吸ってください。
理衣 (タバコに火をつけて) ごめんねー。昔からこれなんだ私。吸いやす
くてさ。
奈美 メンソールなんだっけ？
理衣 そうそう。
奈美 名前の通り冷たい感じ？

理衣 おお！ それそれ、今ちようどそう言おうと思った！

奈美、立ち上がったって、階段の方へ行く。

理衣 あれ？ 奈美？

奈美 あ、ごめん。ちよつと休む。

理衣 でももう直ぐご飯。

奈美 それまでには……。

理衣 わかった。

奈美、もう一度、日めくりカレンダーを確認。ケータイを開く。

その後、階段の一番上で、座り込みロボiの様子を見る。

そこへ春菜が2階からやってくる。

春菜の方を見る奈美と理衣。

同様に視線を春菜に送る金城。

春菜 (平坂へ) すいません。

平坂 はい。

春菜 コーヒーいただけますか？

平坂 はい。アイス？ ホット？

春菜 アイスで。

平坂 ミルクとガムシロップは？

春菜 お願いします。

平坂 はい。少々お待ちください。(コーヒーを作りに行く。)

春菜、机に座り、鞆から筆記用具、参考書を取り出し勉強を始める。

理衣、2本目のタバコに火をつける。

平坂、春菜にコーヒーを出す。

平坂 お待たせしました。

春菜 ありがとうございます。

平坂 もう少しでご夕食の準備ができますので。

春菜 あ、はい。

平坂 ごゆっくりどうぞ。(夕食の支度に戻ろうとする。)

春菜 あ、あの！

平坂 はい？

春菜 こちらのペンションって1年中営業してますか？

平坂 はい？ ええ、まあ。

春菜 あの、私、本日宿泊予定の川本春菜と申しますが……。

平坂 はい。存じております。

春菜 この1年で川本秋吉という者は、宿泊しておりませんか？

平坂 うーん、色んな方が宿泊されますからね。過去の記録を確認してみな

いとなんとも……。

春菜 確認して頂くことはできますか？

平坂 プライベートなことですので……。

春菜 父なんです！

平坂 はい？

春菜 1年前から行方不明なんです。

平坂 ……あの神隠し事件の？

春菜 そうです。

平坂 そうでしたか。それでしたらもし宿泊されていれば、私の記憶に残っているはずですので……。

春菜 来ていませんか……。

平坂 ええ、残念ながら。

春菜 そうですか……。

平坂 しかし、記憶違いという可能性もありますから、一応名簿をお調べしましょうか。

春菜 は、はい。お願いします！

平坂 えーっと、お調べするのは、川本秋吉様でよろしいでしょうか。

春菜 はい。三本がわのかわにブックの本で川本。季節の秋に大吉小吉の吉で秋吉です。

平坂 承知しました。では、お調べしてまいりますので、少々お待ちくださいね。

平坂、去る。

スピードが平常時に戻る。

理衣がタバコの火を消し、立ち上がる。

理衣 (春菜の方へ向かいながら) ちょっとすいませーん。

奈美、後続く。

理衣 あ、奈美も聞いてた？

奈美 あ、うん。

理衣 あ、すいませんね。

春菜 はい？

理衣 ごめんごめん、学生さん？

春菜 は、はあ。

理衣 聞くつもりなかったんだけど、話聞こえちゃってさ。

春菜 え？
理衣 私の友達の彼氏も1年前に行方不明になってるんだわ。
春菜 ええ！
理衣 神隠し事件ってやつ？
春菜 はい。

音楽がかかり、サイレントで会話が進む。
そこへ平坂が戻ってくる。
平坂を加えサイレントトークは続く。
急に金城、立ち上がり、大声を出すモーション。
全員、金城の方を見る。
金城を加えてサイレントトーク。
平坂、会釈をして去る。
金城、春菜の方を見る。目を背ける春菜。
金城、トイレへと席を立つ。
音楽終了。

春菜 どこかのペンションに家族で行くのは、毎年恒例で……。でも、去年は父と私の2人きりでした。

舞台が赤く染まり、そのまま暗転。

○第四幕

2021年。
舞台は第一幕と全く同じロビー。
壁の日めくりカレンダーは変わらず、8月13日を指している。
19時前。ロビーの椅子で寝ていた奈美。
ふと目が覚め、顔を上げる。
彼女の横には、腕時計。時間は19時で止まっている。
時計を手に取り、眺める。焦って立ち上がり、周囲を見渡す奈美。
平坂は時折奈美を気にしながらも、食器を運ぶなど夕食の準備を進めている。
金城もコーヒーを口につけ、タバコを吸いつつ小説を読んでいる。
そこへ理衣が外からやってくる。
受け答えをする度にある疑惑が確信に変わっていく奈美。

理衣 え？
奈美、あんた夕方からずーっとここにいたわけ？
奈美 え？
あ、ああ、あああ、うん。

理衣 (隣に座りながら) 何してたの？
奈美 うーん。いやいや、何も。理衣は？
理衣 散歩。ほらっ、ここって圏外じゃん？
奈美 うん。
理衣 耐えられなくなつてさ、電波受信できるところ探してた。
奈美 ……あつた？
理衣 なかつたよ。
奈美 だろうね。
理衣 そもそも電源切れてたっていうね。
奈美 ……。
理衣 (自分のスマホを指して) 自分が如何にこいつ中心の生活を送つたか思い知らされたよ。
奈美 ……。
理衣 はあ、テレビもねえ、ラジオもねえ、2時間行つても電波がねえ！
奈美 ええ？ えー……！
理衣 え？ 何？ めっちゃびっくりしたんだけど！

平坂が走ってくる。

平坂 どうかされました？
奈美 いや、あの！ あれ？ 一体……何が？
平坂 大丈夫ですか？
奈美 いや、あ、あの大丈夫、え？ 嘘？ 何これ。
平坂 どうされました？ お気分でも？
奈美 あ、大丈夫です。そういうのじゃなくて、え？ でもこれってやっぱ
り。
平坂 救急車呼びましようか？
奈美 いや、そういうのじゃないんです。
理衣 (とつさに手をあげて平坂に) すいませーん。
平坂 はい！
理衣 灰皿もらつていいですか？
平坂 はい。あの、ご友人……。
理衣 あー大丈夫です大丈夫です！ 時々こうなるんです！ 灰皿灰皿！
平坂 あ、はあ。では少々お待ちくださいねー。(灰皿を取りに行く。)
理衣 (奈美に) どうした？
奈美 今日何日？
理衣 え？ 8月13日でしょ？
奈美 何年？
理衣 2021年でしょ？ 何言つてんの？
奈美 だよね。

理衣 何言ってるの？
奈美 昨日、私たち同じことした。
理衣 はい？
奈美 だから、一昨日と昨日と今日で同じことが起きてるの。
理衣 どーゆーこと？
奈美 こっちが知りたいよ！
奈美 なんて言えばいいんだろう。だからその、そう！
理衣 は？
奈美 昨日は……昨日は夢だと思ったの。一昨日と同じことが起こるなって。だから気にしないようにしてた。でも3日も続くなんてありえない。おかしすぎる。

理衣 いやいや何言ってるの？ おかしいのは奈美の方だって……。
奈美 (ボソツと) 灰皿が来る。
理衣 え？
平坂 お待たせしました。(灰皿を理衣に渡す。)
理衣 ありがとうございます。
平坂 ごゆっくりどうぞ。(夕食の支度に戻る。)
奈美 「吸っていい？」って聞く。
理衣 え？
奈美 「いいけどさ。」って言う。
理衣 ちよつとちよつと何それ？ 怖いんだけど。
奈美 「奈美ってタバコ嫌いだったけ？」
理衣 ……。
奈美 「そんなことないよ。」「じゃあ何でそんな嫌な顔すんのー？」「渚と銘柄が一緒なんだよね。」
理衣 何？ 未来予知？
奈美 違う。繰り返してる。同じことが……。
理衣 本気で言ってるの？
奈美 そんな嘘つかないよ。
理衣 え？ ちよつと理解が追いつかないけどさ。奈美は昨日、今日と同じことを既に体験したってこと？
奈美 そう。ちなみに一昨日もね。
理衣 そんなことある？
奈美 だってあったんだもん。
理衣 なんだ？ なんて言うんだっけそういうの？ テレパシー？ サイコキネシス？
奈美 ループ。
理衣 え？
奈美 ループしてるんだ。私。一昨日も昨日も。そして今日も同じことが起こって日付が変わらない。

理衣 ループ！ それだ！ それ！ なんかの漫画かアニメで見たことあるよ。

奈美 でもおかしいの！

理衣 え？

奈美 同じことをしてるのに年が過ぎてるの！

理衣 え？

奈美 今年、2021年でしょ？

理衣 うん。

奈美 昨日は2020年だった。一昨日は2019年。その前は……ダメだ。

その前は多分2018年のはずだけど……。そこで本当に病院に？

理衣 どういうこと？

奈美 毎年同じことをしてる？ そんなわけない。違う。毎日1年経ってる

んだ！

理衣 待つて待つて。わかんない。

奈美 それに、多分年もとってないし。

理衣 ごめんごめんごめん！ 先に進まないで！ ついていけない！

奈美 あ、ごめん。

理衣 落ち着いてよ。

奈美 ……渚が行方不明になったのっていつ？

理衣 え？ 去年でしょ？

奈美 そう、私もそう思ってた。でも違う！

理衣 え？

奈美 私たち毎年、「去年渚がいなくなった。」って喋ってるんだ！ 本当は

何年も前のことなのに。

理衣 ごめん、わかんないよ奈美……。

奈美 ごめん……。

沈黙。

考え事をする理衣。

理衣 平坂さん、すいませーん！

平坂 はーい。

理衣 そのホワイトボード使っていいですか？

平坂 ああ、ご自由にどうぞ。

理衣 ありがとうございます！

奈美 どうしたの？

理衣 (ペンを持って) 奈美の言ってることはさ、うーん。昨日は2020

年の8月13日です。横田くんがいなくなったのは去年、2019年だと私

は言っています。(「昨日 2020年 8月13日 リエ、ヨコタ2019

年に×話」と書く。)

奈美 うん。

理衣 でも奈美はえーっと、一昨日だから……。2018年に横田くんがいなくなってたと思ってます。（右端にナミ ヨコタ 2018年に×話」と書く。）

奈美 多分……。

理衣 そして、今日！ 今日はずいぶん昨日から1年経って2021年の8月13日です。なぜか私は横田くんがいなくなったのは去年だと言っています。（昨日の隣に「今日 2021年 8月13日 リエ、ヨコタ去年に×話」と書く。）

奈美 うん。

理衣 さらにさらに、仮に明日になったとすると、またなぜか1年経って、明日は2022年の8月13日です。私はなぜか、横田くんがいなくなったのは去年だと言うのでしょうか。（今日の隣に「明日 2022年 8月13日 リエ、ヨコタは去年に×話」と書く。）

奈美 ……そういうことになる。

理衣 そして1日に1年進むけど、年はとってないっぽい？ で、毎日同じことを繰り返してる。

奈美 うん。

理衣 そんなことある？

奈美 だって現実には！

理衣 うーん。

奈美 なんて私だけ記憶があるんだろう……。

理衣 ……じゃ、じゃあさ、うーん。あ、そだ！ もし本当に昨日？ 去年？ と同じことしてるなら、これから起こることもわかるよね？ 言ってみてよ。

奈美 う、うん。そう、えーっと……これから宿泊者の川本春菜さんが来る。

コーヒーはアイス、ミルクとガムシロップを使う。参考書を取り出して勉強する。管理人の平坂さんに自分の父親のこと、そう、失踪した父親のことを尋ねる。

理衣 本気で言ってる……。

奈美 （遮って）本気で言ってる。

そこへ春菜が2階から降りてくる。

春菜の方を見る奈美と理衣。

同様に視線を春菜に送る金城。

春菜 （平坂）すいません。

平坂 はい。

春菜 コーヒーいただけますか？

平坂 はい。アイス？ ホット？

春菜 アイスで。
平坂 ミルクとガムシロップは？
春菜 お願います。
平坂 はい。少々お待ちください。（コーヒーを作りに行く。）

春菜、机に座り、鞆から筆記用具、参考書を取り出し勉強を始める。

理衣 嘘でしょ……。
奈美 私たち、変なループから出れなくなっただっばい。
理衣 そんなことって……。
奈美 神隠し。
理衣 そんな、都市伝説でしょ？
奈美 あ、コーヒーが来る。

平坂、春菜にコーヒーを出す。
その様子を眺める春菜と理衣。
音楽がかかり、スピーディに台詞を吐く平坂と春菜。

平坂 お待たせしました。
春菜 ありがとうございます。
平坂 もう少しで夕食の準備ができますので。
春菜 あ、はい。
平坂 ごゆっくりどうぞ。（夕食の支度に戻ろうとする。）
春菜 あ、あの！
平坂 はい？
春菜 こちらのペンションって1年中営業してますか？
平坂 はい？ ええ、まあ。
春菜 あの、私、本日宿泊予定の川本春菜と申しますが……。
平坂 はい。存じております。
春菜 この1年で川本秋吉という者は、宿泊しておりませんか？
平坂 うーん、色んな方が宿泊されますからね。過去の記録を確認してみないとなんとも……。
春菜 確認して頂くことはできますか？
平坂 プライベートなことなので……。
春菜 父なんです！
平坂 はい？
春菜 1年前から行方不明なんです。
平坂 ……あの神隠し事件の？
春菜 そうです。

平坂 そうでしたか。それでしたらもし宿泊されていれば、私の記憶に残っているはずですので……。

春菜 来ていませんか……。

平坂 ええ、残念ながら。

春菜 そうですか……。

平坂 しかし、記憶違いという可能性もありますから、一応名簿をお調べしましょうか。

春菜 は、はい。お願いします！

平坂 えーっと、お調べするのは、川本秋吉様でよろしいでしょうか。

春菜 はい。三本がわのかわにブックの本で川本。季節の秋に大吉小吉の吉で秋吉です。

平坂 承知しました。では、お調べしてまいりますので、少々お待ちくださいね。

平坂、去る。

顔を見合わせる春菜と理衣。

音楽停止。

理衣 ……わかった。信じる。

奈美 ……ありがとう。

沈黙。

理衣 でも、だからってさ、どうすりゃいいわけ？

奈美 私の記憶は昨日も一昨日も夕食前、19時位に消えてる。

理衣 え？ それってそんなに時間ないじゃん！

奈美 それまでに何かしないと。

理衣 何かって……。そうだ！ その女の子も仲間にして……。

奈美 それだと昨日……。つまり去年と同じになる。

理衣 え？

奈美 去年も一昨年も理衣があの子に声をかけたの。

理衣 嘘？

奈美 本当。

理衣 くーっ！ なんか操られてるみたいでいやだ！ 気持ち悪い！

奈美 私も渚がいなくなった時の記憶喪失以上に気持ち悪い。

理衣 もう頭ぐちゃぐちゃだよ。

そこに、佐田と吉田が来る。ペンションの外での会話。

佐田 見つけた！ 見つけたぞ！

吉田 どういうこと……？
佐田 そういうことだろ？

佐田、タバコ（赤マル）を取り出し、火をつける。

吉田 のんきですか！

佐田 落ちつかしてんだよ。

吉田 意外と小心者なんですから。

佐田 お前、マルボロの意味を知ってるか？

吉田 え？

佐田 マルボロの頭文字は *Man always remember love because of romance* only 「人は本当の愛を見つげるために恋をする」そんな意味があるのさ。俺にびったりだね。ちなみに俺が赤マルにしているのにはこいつに他にも都市伝説があるからなんだが。

吉田 先輩わざと関係ない話して気をそらせてませんか？

佐田 え？

吉田 現実見ましようよ！

佐田 現実を見るとお前の信じていないものを信じることになるけどな！

吉田 ……そうだ！（スマホを出す。）

佐田 何かわかるか？

吉田 時間と日付。でも圏外です。

佐田 今、何日何時なんだ？

吉田 2021年8月13日、もうすぐ19時です。

佐田 ふむ。ちよつと事件の時間より進んでるな。さつきまで17時くらいだった。

吉田 そんな馬鹿な！ 多分磁気でスマホが故障したんです。もしくはそれくらい私たちが気を失ってたか……。

佐田 この後に及んで科学か？

吉田 だって、こんな。

佐田 どうあがいたってこのペンションは説明つかんだらう？

吉田 そうなんですけど……。

佐田 よし、行くぞ！

吉田 ……はい。

佐田、タバコの火を携帯灰皿で消す。

ペンションの中に入る佐田と吉田。

駆けつける平坂。

奈美、金城、驚いた表情。

佐田 ペンション「北斗七星」。

吉田 そんな……やっぱり。
平坂 ああ、どちら様でしょうか？
佐田 ああ、失礼。私、月刊オカルティの佐田と申します。
吉田 ……同じくアシスタントの吉田です。
奈美 (ボソツと) いなかった。
理衣 え？
奈美 あの2人、昨日と一昨日には出てこなかったの！
理衣 そーなの？ じゃああいつらが何か突破口を……。
奈美 何もしないことによつて未来が変わった？
理衣 そんなことある？
佐田 (平坂に) オーナーさんですね？
平坂 はい。平坂と言います。
佐田 ここがペンション「北斗七星」で間違いないですね？
平坂 はい？ はい。そうですが……。
佐田 吉田！
吉田 はい！
佐田 どういうこと？ 怖い。おしっこちびりそう。
吉田 先輩バカなんですか！
佐田 だって、まさかこんな事態に。
吉田 さっきまであんなに自信満々だったのに。
金城 なんなんだよあんなたち！
吉田 す、すいません。怪しい者では、ないんです。
佐田 ああ、怖い。怖い！ 怖いので皆さん！ (手を叩いて) さあ皆さん！
俺に注目です！ 順番に整理しましょう。みなさん！ 私たちはあなた方を助けに来たんです！
春菜 助けに？
奈美 (理衣に) やっぱり、昨日までと違う。
理衣 助かるの？ 私たち？
佐田 エイリアンアブダクション！
理衣 は？
佐田 そんな言葉を聞いたことはありませんか？
金城 エイリアンならありますけど。
春菜 アブダクション……。誘拐？
吉田 正解です！ さすが受験生！
春菜 なんて受験生って……。
佐田 我々は一方的にあなた方の方のを知っているのです！
金城 なんですかそれ！
吉田 今、誘拐とお答えくださった女性。
春菜 はい。
吉田 川本春菜さん。高3の受験生ですね。

春菜 (驚いて) 何で名前を……？
佐田 皆さんを助けに来たからです。
春菜 あ、でも私、高3じゃなくて浪人ですけど。
佐田 あれ？ 吉田？ 吉田くん？
吉田 あれ？
佐田 吉田クーン！
吉田 あ、あれ？ あ、そうか。高3は事件当時か。だから今は22歳ですか！
春菜 あ、私、19歳なんですけど。
佐田 吉田クーン！
吉田 あれ？ そんな……。
佐田 (咳払いをして) とにかく、助けに来たのです！
平坂 助けにというのはどういうことでしょうか？ 私たち別に……。
佐田 エイリアンに誘拐されてチップなどを埋め込まれる。そんな事件を聞いたことがあるでしょう？ 私たちはあなた方が巻き込まれたこのペンション北斗七星集団神隠し事件はアメリカで最初と言われるヒル夫妻のエイリアンアブダクションや、マサチューセッツ州に住むベティのエイリアンアブダクションに次ぐ事件であると考えたのです！
理衣 ちょっと待って！ 北斗七星集団神隠し事件って、神隠しにあったのは私たちじゃないでしょ？
奈美 神隠しにあったのは、渚と川本さんのお父さんの2人じゃないんですか？
佐田 いいえ？ 神隠しにあったのは皆さんです！
春菜 え？ どういうことですか？
金城 俺たちが神隠し？
吉田 まさかこういう状況になっているとは、正直私たちも驚いているのです。が！ これは間違いありません。あなた方は行方不明になっていたのです！
佐田 (平坂を指して) そのエイリアンによつてね！
平坂 え？ 私がエイリアン？
佐田 そうだ！ お前がアブダクションしてこの人たちを洗脳したんだ！
平坂 アブダクションだ！ 平坂アダブク、ん？ 平坂あアダブク、ブクブクション。平坂アブクショウ。アー……。
吉田 さっきまで言えてたじゃないですか！ マサチューセッツも言えてたじゃないですか！ なんで急に噛んじやうんですか、かつこ悪い！
佐田 と、とにかく、平坂さん！ あなたが、アブダクション！ おお！ 言えた！ アブダクション！ によつてこの人たちをさらい、あたかも神隠しされていなかったように記憶を捏造した！ 違いますか？
平坂 そ、そんな。違いますよ。
金城 そんな馬鹿な話ありますか？ どこからどう見ても平坂さんは人間じゃないですか！

吉田 そうですよ。証拠も無しに！先輩はバカなんですか！

佐田 バカって言う方がバカなんです！

吉田 先輩はそればっかですか！結論付けるのはまだ早すぎます。

佐田 はい。

吉田 それにこの状況……。エイリアンアブダクションの説は薄そうです。

佐田 そうかな？

吉田 おそらく、黄泉比良坂説の方が近いかと。

佐田 なるほどな。(ニヤニヤして) 信じてるのか？

吉田 うるさいです！

理衣 よもつ？なにそれ？

吉田 ああ、すいません。一度、状況を見直しましょう。ここにいらつしやるのは、オーナーの平坂さん、金城賢治さん、川本秋吉さんの娘さん、春菜さん、横田渚さんの元恋人の広瀬奈美さん、その友人の菊地理衣さん。ですね。

奈美 元つてつけるのやめてください。

佐田 と、いうわけで行方不明者がドンピシャで揃っている。

吉田 ちよつと私たちもわからない部分が多いのですが、一旦説明致しました。私たちは行方不明者。神隠し事件の被害者であるあなた方を探していました。そして我々がいかにしてここに来たのか。そう、それは2019年春の出来事でした。

奈美 一昨日……。

音楽がかかり、明転。

周りの人間は静止。

病室のベッドが運び込まれる。

病室では渚が寝ている。

そこへ秋吉が入ってくる。

渚 ああ、川本さん。何度も足を運んでくださって申し訳ございません。

秋吉 もちろんですよ。横田さんは数少ない同志ですからね。

渚 それで、何か追加でわかりましたか？

秋吉 過去の神隠し事件で戻ってきた例を集めてみたんですけど、戻ってきた方は大体神隠し時の記憶を無くしているらしいんです。

渚 なるほど。つまり、もし仮に奈美達がどこかで生きていたとしても現状の記憶がない可能性が高いってことですね。

秋吉 はい。ですが、それ以上にあれからもう2年も経っているのが、何とも。

渚 2年経って戻ってくる可能性は限りなく低いつてことですよ。

周囲の静止解除。

渚、秋吉静止。

奈美 あなた達、渚を知ってるんですか？

春菜 お父さんは？ お父さんはどこにいるんですか？

吉田 落ち着いてください。私たちは横田さんと川本さんに頼まれてここにきたんです。

奈美 会わせてください！ 渚に！ 渚に会わせてください！

佐田 落ち着いて！ まず、説明を聞いてください！

音楽がかかり、明転。

周りの人間は静止。

渚と秋吉の元に佐田と吉田が向かう。

渚 あなた方は？

佐田 月刊オカルティの佐田と申します。

吉田 同じくアシスタントの吉田と申します。

秋吉 このお2人が先日話した、我々を手伝ってくださる方々です。

渚 本当ですか？ 現役の記事さんが手伝ってくださるなんて。

吉田 三流ですけどね。

佐田 自分で言うな！

秋吉 オカルト系専門なんで神隠しとかも詳しいんです。先日この事件は神隠しではなくエイリアンアブダクションの可能性もあるという仮説を立てて下さったんです。

佐田 まあ規模的に、その可能性の方が高いのかと。

渚 ちなみに、神隠しや天狗隠しだとすれば、黄泉比良坂。黄泉の世界・つまり死後の世界に連れ去られている途中って考え方もできませんかね？

佐田 あなた素晴らしい！ 相当いろいろお調べになったようだ。そうですね。その可能性もあります。実際あなた方2人は瀕死に近い重症でした。

あのペンションの火事で生き残っただけでも奇跡です。

渚 いえ、実際そうであってくれれば生きてる可能性が高いですから、そういう意味での期待をしているだけなんですけどね。

秋吉 当然です！ 私たちが生きてると信じていなきゃ、もうおしまいですからね！

佐田 お2人の心意気は実に素晴らしい！

吉田 心意気で何とかできる問題ではないと思いますけどね。

佐田 そういうことを言うんじゃない！

渚 それに8月13日ってお盆じゃないですか。お盆には死者が帰ってくるなんて話も聞いたことがあります。

秋吉 そう、信じたいです。

周囲の静止解除。
秋吉静止。渚、去る。

佐田 ……というわけで、わかりましたか？ 黄泉比良坂説というのは、つまりここが、生と死の狭間の世界かもしれないということ。ペンションの火事によってあなたは方は生死をさまよい、この黄泉比良坂に閉じ込められているのです！ そう、我々を含め、ここにいる方々は今、半分死んでいると言ってもいいでしょう！

理衣 黄泉比良坂……。

春菜 神隠しにあつて、半分死んだ状態……。

平坂 ちよつと待ってください！ ペンションが火事って何ですか？

金城 ここにばつちりありますよペンション。

吉田 だから私たちも驚いているんですよ。

佐田 私たちのいた世界？ まあ仮に現実世界としましょう。その世界では、ペンションは燃え尽きて燃えかすのみが残っています。死体は0名、生存者2名、行方不明者4名です。

平坂 あの、それって私は？

佐田 だからエイリアンなんだろう！

平坂 違いますって！

佐田 じゃあなんだ！ 幽霊か？

平坂 こんなにはつきり見える幽霊がいますか！

吉田 たまたまなのか故意かはわかりませんが行方不明者のリストから、そう、なんらかの理由で外されたと考えるのが自然ですね。

平坂 なんでそんな。

佐田 まあ一旦そうしておこうか。

春菜 でも、仮に私たちが行方不明者だったとしても、事件が起きたのは去年ですよ？

佐田 去年？ いや、あなた方が行方不明。つまりこの黄泉比良坂らしきペンションにきたのは2017年。今から4年も前です。そして我々が捜査を始めたのが2年前の春。2019年になります。

春菜 そんな……？ どういうこと？

奈美 あのっ！

佐田 ん？

奈美 もしあなたたちが言うようにここが、生と死の狭間、黄泉比良坂みたいなところだと信じたとしましょう。

佐田 おお。信じてくれるか。

奈美 私たちが、事件の1年後をループしてる可能性はありませんか？

佐田 何？

理衣 奈美！ あの、だからですね。つまり……。

佐田 ん？ このホワイトボードは……。 (ホワイトボードを眺める。)

理衣 あ、それは。
佐田 ふむふむ。……ループ。ほうほう。
奈美 そこに書いてあるのはですね。
佐田 (遮って) 言わなくていい！ わかった。ペンを貸してくれるかね？
理衣 は、はい。(ペンを佐田に渡す。)
佐田 なぜか少しずれがあるな。
理衣 え？

佐田、2018年の隣に、「現実 2017年火事発生」と書く。

佐田 つまりこう言うことだな。実際には2017年に火事が起きた。だが、皆さんにはその記憶はない。あるのは「去年横田渚と川口秋吉が神隠しにあった。」という事実、そしてその状態で1年間、現実世界で過ごしたつもりになっていく記憶だけ。さらにこの黄泉比良坂では、現実の1日が、1年で過ぎ去る！ 君たち2人はそう言いたいんじゃないかね？

奈美 すごい！ なんで？

吉田 この人のオカルト的直感こそ、この世で一番のオカルトなんです。

佐田 褒め言葉として受け取っておこう。

理衣 私は、よくわからないままなんです、奈美には記憶があるみたいで……。

佐田 ふむ。神だか天狗だかエイリアンだが、自分たちが死に瀕してることを気付かせないために1年分の記憶を埋め込みループさせてるのか、果てまた……。

吉田 ひとまず確実なのは、現実世界は今2021年で、皆さんは2017年からこの場所に閉じ込められているということです。

平坂 そんな……。

春菜 すいません、ちよつと理解が追いついてなくて申し訳ないんですけど、つまり父が私を、4年も探してたってことですよ？ あの！ すいません！ 私の母は？ 私の母のことは何かわかりませんか？

吉田 こういうと嫌な言い方ですけどね。諦めたみたいです。とつくに。

春菜 え？

佐田 吉田！ 言い方を考えろバカ！

吉田 すいませーん。

佐田 いいか、事件から4年も経ってるんだ。行方不明者ってのは7日間見つからないと大体死んでいるというデータもある。加えて今回のケースは火事もあった。「死体が見つかってないだけ。」そう思われても致し方ない。いや、逆を言えばそれでも探す横田や川本さんの執念がすごいんだ！ だから母ちゃんを責めるなよ、嬢ちゃん。

春菜 ……は、はい。

金城 それで？ ひとまずあなた方の話を信じたとして？ 結局どうやって

ここに来たんです？

吉田 そうですね。話し合いを重ねて我々は、このエイリアンブダクショ
ンと臨死で黄泉比良坂説の2方向から調査しました。それが今年2021
年の話です。

音楽がかかり、明転。

周りの人間は静止。

秋吉の元に佐田と吉田が向かう。

秋吉 もう耐えられません！ 私はやります！

吉田 バカなことはやめてください！

佐田 まあ他に方法が見当たらないのもわかりますがね。

吉田 先輩も余計なこと言わないでください！

秋吉 行かせてください！ もう一度！ もう一度娘に会わせて下さい！

あんな！ あんな終わり方はしたくない！ 横田さんともそれは何回も話
したんだ！ 私は、行きます！

佐田 無茶です！

吉田 そうですよ。いくら黄泉比良坂に行くためだからって、2017年の
事件をペンション跡地で再現してみるなんて、自殺行為もいいところです。

秋吉 そうです！ 自殺行為です！ あの場所で自殺して神やエイリアンが
娘のところに僕を連れてってくれるなら喜んで自殺します！ 臨死するた
めの練炭はすでに用意してあるんです！

吉田 死んだらおしまいなんです！ 秋吉さん！ 考え直してください！

秋吉 おしまいで構わない！ 可能性があるなら、私はそれに賭ける！

佐田 わかりました！ そこまでおっしゃるならば私が行きます。あなたが
死んだらそれこそ本当の終わりです。

秋吉 何言ってるんですか！ 赤の他人にそんなこと。

佐田 もう赤の他人じゃありません！

秋吉 え？

佐田 我々は仲間です！

秋吉 なんで、そこまで……。

吉田 この人、仕事に夢持ちちゃってるタイプのバカなんですよ。

佐田 うるせーな！

秋吉 何か、あったんですか？

佐田 大したことじゃないですよ。昔ちよつとした記者仲間がね、伝説の殺
人鬼とやらのオカルトネタを追っててね、無様に殺人鬼に負けて事件も暴
けず闇に葬り去られたことがありましたよ。

吉田 佐田さん……。

佐田 そんなことが、あったようななかったような。

秋吉 え？

吉田 あったんですか？ なかつたんですか？

佐田 あったぐらいの気概でやれってこった。秋吉さん、あなたは最後の砦なんです。ここで終わっちゃいけないんです。行くなら俺が行きます。

秋吉 佐田さん……。

吉田 さだまさしかけましようか？

佐田 バカヤロー！

音楽がかかり、明転。

秋吉、去る。

周りの人間はそのまま静止。

吉田 私達は2021年8月13日、つまりつい先ほど、ペンション跡地へと向かいました。

川のせせらぎの音、蟬の鳴き声。

ここは、深い森の中。ペンション跡地。

プロローグのシーンにつながる。

天狗はいない。

吉田 ……わかりました。じゃあ私も行きます！

佐田 はあ？

吉田 私は先輩付きの部下ですから、先輩が行くっていうならついていきます。

佐田 なんでそうなるんだよ。さとの国のお姫様は城から出ないようしとけつつうの！ じいやに怒られんぞ！

吉田 なんですすかじいやって。バカにしないでください！

佐田 きゃんきゃんうるせーよ。

吉田 私も連れてってください！

佐田 ……それこそバカだ。

吉田 バカって言う方がバカなんじゃないんですか？

佐田 揚げ足とんなよ。

吉田 ……私は嫌なんですよ。

佐田 何が？

吉田 このまま死ぬのが、です。

佐田 はあ？

吉田 正直うまく説明できないですけど、行かなきゃいけないような気がしてるんです。

佐田 なんだそりゃ？

吉田 だからついていきます。

佐田 ……もう知らん！ 勝手にしろ！ ただし、俺は何の責任もとんねえ

からな！

吉田 先輩が責任取ってくれたことなんてないじゃないですか。

佐田 うるせーな。大体お前なんか強そうだから大丈夫だろ。

吉田 どういうことですか？

佐田 お前吉田小百合だろ？

吉田 はい？

佐田 なんかも世界取れそうじゃん！

吉田 それはさおりです！

佐田 あれ？ そうか。

吉田 そうですよ。

佐田 まあでもやつぱりお前強そうだし。姫様だし。生意気だし。

吉田 先輩は悲壮感のある歌でも歌いながら歩いてりゃいいんですよ！

佐田 はあ？

吉田 佐田雅樹なんですから！

佐田 お前まさしさんバカにすんじゃねえよ！ 俺は雅樹！

吉田 はいはい。じゃあついていきますからね。

佐田 もういいよ。わかったよ。気合い入れろ！ 行くぞ！

吉田 はい。

音楽がかかり、明転。

周りの人間も静止を解く。

吉田 そうして我々はここに来るためペンション跡地で練炭自殺を図ったんです。

佐田 一酸化炭素は無臭、無刺激！ 気づいたらくらっといつて気づいたらペンション前ってことですよ！ 大成功！

吉田 ですが、疑問点が2つ。1つは練炭自殺に使った車が消えてしまったこと。もう1つは、火事のあった17時頃に記憶を失ったのに、気づいたら

19時だったこと。

佐田 まあ疑問点はあるものの、ひとまずわかっていただけましたかな？ 私たちがあなた方を助けに来たというところが。

金城 なんかも壮大すぎて信じられないです。

奈美 私は信じます。まあ、信じるしかないってのが事実ですけど。

理衣 私も信じますよ。で、あなた方が来た理由？ それはわかったけど、どうやって元の世界とやらに戻るんですか？ それが大事じゃないですか？

か？

佐田 そこが問題だ！

春菜 それってつまり？

佐田 戻り方はあまり考えていなかったんだ。

一同 えー！

吉田 まあ結構行き当たりばったりですからねオカルトなんて。理論よくあ
って理論じゃないんです。
理衣 そんな投げやりな。
佐田 どうするか、ね。
吉田 お腹空きましたね。
佐田 そういやそうだな。
理衣 のんきか！ のんきかあんたら！
平坂 あ、お食事にしますか？ もう19時になりますもんね。
佐田 おお！ それは賛成！
金城 ちよつと僕トイレ行つてきます。
平坂 すぐに準備しますね。

金城、トイレに立つ。

吉田、佐田、談笑している。

ぼーっと壊れた時計を眺める奈美。

急いで夕食の準備をしようとする平坂にぶつかる。

奈美 あ！（腕時計を落とす。）

理衣 あ、落としたよ。

吉田 （理衣と同時に）あ、落としましたよ？

奈美、理衣、吉田が同時に腕時計を触る。

その瞬間、舞台が赤く染まり、暗転。

○第五幕

5回目のループ。2022年。

壁の日めくりカレンダーは変わらず、8月13日を指している。

ホワイトボードの文字は消えている。（両面式のをひっくり返す。）

19時前。ロビーの椅子で寝ていた奈美。

ふと目が覚め、がばつと顔を上げる。

平坂は時折奈美を気にしながらも、食器を運ぶなど夕食の準備を進めている。

金城もコーヒーを口につけ、タバコを吸いつつ小説を読んでいる。そこへ理衣が外から走ってやってくる。

理衣 奈美！
奈美 え？
理衣 今日！ 何日！
奈美 2022年、8月13日！
理衣 横田くんがいなくなったのは？
奈美 2017年！ 理衣、もしかして？
理衣 昨日？ というか今日？ 変な記者2人組に会う？
奈美 理衣！
理衣 私も昨日の記憶があるままループしたみたい……。
奈美 なん？
理衣 なんてだろう……。
奈美 ……時計。
理衣 え？
奈美 (時計を出して) この時計に触ってた。
理衣 ああ。……え？
奈美 わかんないけど、夕食前の時間にこの時計を持つてると記憶を持ったままループするのもかも。
理衣 なるほど……。
奈美 そうとしか、今の所考えられない。
理衣 だとすると、あの記者の女の人も？
奈美 そうかもしれない。
理衣 そうか。
奈美 でもさ、ループから出れるわけじゃないんだよね。
理衣 え？
奈美 ずっと渚は私を探し続けるのかな？
理衣 奈美……。

そこへ春菜が2階から降りてくる。
春菜の方を見る奈美と理衣。
同様に視線を春菜に送る金城。

春菜 (平坂に) すいません。
平坂 はい。
春菜 コーヒーいただけますか？
平坂 はい。アイス？ ホット？
春菜 アイスで。
平坂 ミルクとガムシロップは？
春菜 お願いします。
平坂 はい。少々お待ちください。(コーヒーを作りに行く。)

春菜、机に座り、鞆から筆記用具、参考書を取り出し勉強を始める。理衣立ち上がり、手を叩いてみんなの注目を集める。

理衣 (呼び止めて) 平坂さんすいません！

平坂 はい？

理衣 後、えーと、その川本春菜ちゃんと、山か森を守る人も！

春菜 はい？

金城 それ僕のことですか？

奈美 ちよつと理衣、どうすんの？

理衣 皆さんにちよつとお話があります。まずは、昨日のことを覚えてますでしょうか？

理衣、サイレントで先日のことを話し始める。

同じくサイレントで驚いたり、納得したりするその他一同。

ホワイトボードを反転させ、説明。

そこに、佐田と吉田が現れる。ペンションの外での会話。

吉田 だから！ 戻ってきちゃったんですって！

佐田 ちよつと待て落ち着かせろ！

佐田、タバコ(赤マル)を取り出し、火をつける。

吉田 のんきですか！

佐田 落ちつかしてんだよ。

吉田 それでマルボロの蒔蓄たれるんでしょう？

佐田 (同時に) お前、マルボロの意味を知ってるか？ ……え？

吉田 昨日もそう言ったんですよ。

佐田 じゃあ本当にお前が言うようにループしてるってのか。

吉田 なんで私だけ記憶を残したままループして佐田先輩がそうじゃないのかはわかりませんがね。

佐田 (笑う)

吉田 なんですか！

佐田 (嬉しそうに) 吉田あ、お前オカルト三流記者っぽくなってきたな。

吉田 しょうがないでしょう！ こう立て続けに変なことがあったら！

佐田 俺はお前の言ってること信じるぜ？ さて、確かめに行くか。

佐田、タバコの火を携帯灰皿で消す。

ペンションの中に入る佐田と吉田。

平坂、金城、春菜、驚いた表情。

理衣 ね？ 私の言った通りの2人組が来たでしょう？
春菜 すごい……。
金城 元々知り合いなんじゃないんですか？
佐田 初めまして月刊……。
奈美 (遮って) オカルティの佐田さんでしたよね？
佐田 え？ おしつこちぶりそう。
吉田 あなた！ 覚えてるんですか？
奈美 やっぱり！
春菜 こんなこと、あるんですね。
金城 どうなってるんだ！
佐田 情報共有しよう！ 皆信じられないはずだ。
吉田 情報共有？
佐田 俺たちも同じ手法でループする。ループを共有するんだ。
金城 バカらしいですね。
佐田 まあやってみようじゃないか。時計に触るだけの簡単なお仕事だ。
春菜 私は賛成です。やってみないと信じられません。
平坂 そうですね。触るだけなら……。
奈美 じゃあ机の上にこの時計を置くので、皆さん手を置いてください。
佐田 はい。

テーブルに腕時計を置き、手を置いて待つ一同。

春菜 なんか、緊張しますね。
佐田 この体制、こつくりさんにも似ているな。ある種の降霊術かもしれん。
理衣 こんなことに慣れてきた自分が怖い。
吉田 それ、めっちゃわかります。
奈美 でも、ループしたら向こうの世界で1年経っちゃうんですよ。
佐田 そうだな。恐らく。
奈美 また1年、渚は私を探し続ける……。
吉田 広瀬さん……。
佐田 どっちにしろ今はループから出る方法が見つからないんだ。こうするしかない。
平坂 もうすぐ、時間ですよ。
理衣 来るよ……。

突如、金城が時計を投げる。

吉田 え？
金城 やめにしましょうよ！ こんなくだらないこと！
吉田 金城さん！

奈美 (急いで壊れた時計を拾って) 急いで! 皆さん! 早く! この時計に触って! 早く! 早く!
佐田 急げ!
吉田 急いで!
春菜 はいっ!
平坂 はいっ!
理衣 早く! 指一本でいいから触れといて! 触れてください! ほら、ちゃんと触って!
奈美 (金城を見て) あなた、どうして!

混乱しつつも腕時計を触る面々。
金城はぐしゃつとタバコを握りしめる。
暗転。

○第六幕

6 回目のループ。2023年。
壁の日めくりカレンダーは相変わらず8月13日を指している。
ホワイトボードは反転して白に。
再びペンションのロビー。
19時前。ロビーの椅子で寝ていた奈美。
とっさに顔を上げ、腕時計を見る。やはり時間は19時で止まっている。
そこへ金城がやってくる。
平坂のみせつせと夕食の支度をしている。

奈美 なんであんなことしたんですか?
金城 くだらないと思っただけですよ。まるで宗教みたいです。
奈美 でも、もしそれでみんなの記憶がないままループになったら、一生このループから出られないですよ!
金城 そうかもしれませんね。でもそれはそれで自然の摂理じゃないですか。自然に逆らってはけませんよ。
奈美 あなたたつてて人は……。とにかくもう二度とあんなことしないでくださいね。
金城 わかりましたよ。

そこへ理衣、春菜、佐田、吉田が現れる。
黙って並ぶ4人。

奈美 ……覚えて……る？
理衣 お……覚えてる。覚えてるよ！ 2回目のループだ！
春菜 私も……同じです。
佐田 こんなことが……。
吉田 菊地さんの言う通り今日がループしてるってことなの？
佐田 この世界はずっと去年火事があったと仮定しての8月13日を繰り返してるってことか。
金城 はあ。

平坂が歩いてくる。

平坂 今は2023年ってことですね。
吉田 そうですね。……それよりも金城さん！ なんであんなことしたんですか！
金城 さつき怒られましたよ。ちよつとくだらないなと思ってしまっただけです。もうしませんよ。
吉田 気をつけてくださいいね！
金城 はいはい。
春菜 つまり、どういうことでしょうか？ 浦島太郎みたいなものですかね？
佐田 いい質問だ！ 浦島太郎はもともと神隠しが原因で出来た物語とも言われている。変わらない毎日を過ごしているうちに現実が飛ぶように過ぎていくってことだろうな。
吉田 どういうことですか？
佐田 ここは一種の竜宮城なんだ。
平坂 そうかもしれませんね。
吉田 平坂さん？
平坂 ですが、都会の喧騒を離れ、ゆったりとした時間を過ごせるこの場所も、忙しく社会活動をする日々も、変わらない毎日という点では同じなのかもしれません。
春菜 どういうことですか？
平坂 いや、考えたんですよ。皆さんがどうしてもして事件当日でなく、その翌年をループしているのか。
春菜 確かに。
平坂 世界が竜宮城だからじゃないですかね。
吉田 はい？
平坂 神の力とえばそれまでなんですが、人間って意外と同じような毎年を送っているものじゃないですか。ここにしろ、家庭にしろ、会社にしろ。我々は神隠しのループ世界において変化を奪われました。でも其の内1年は天狗に化かされたような記憶です。黄泉比良坂は、死後の世界も現実世界も変わらない。生きていることは死んでいるということと同義なんだと

言っているのかもしれませんが。

金城 なんですかそれは。気持ち悪い。

平坂 そうですか。でもあなたのおっしゃった北斗七星のミザールの傍らにある星も、そこにあるけれどないのと一緒に。生きていても死んでいる。そんな存在なのではないでしょうか。

金城 ちよつとカルト的な発想ですね。あまり好みじゃありません。

佐田 エイリアンらしからぬ発言だな。人間観察か？

平坂 だから違いますって。

吉田 でも浦島太郎みたいに戻ったら未来の世界じゃ困りますよね。

春菜 そうか！ あの、それって、そして私は戻ったらもう24歳ってことですか？

佐田 それは戻ってみたいとわからない。見た所、成長は1年分のようだが、戻った世界が西暦何年になるかもわからない。まあ、我々が来た時のことを考えると、ここで戻っても2023年の可能性が高い気がするがな。浦島太郎濃厚だ。そうならないためには一日でも早く現実世界に戻らなければならぬ。わからないことだらけで申し訳ないが、わかることから攻めていこう。

春菜 そんな……。

平坂 同じような毎年なら一生ループしてても変わらないかもしれないですね。

吉田 そんなこと言わないでください！ 変わるんです！ 同じように見えて私たちはちゃんと進んでるんですから！

平坂 そうですか。

理衣 意味わかんないマジ。

佐田 ま、とにかく戻る方法を考えよう。それが大事。それが先決。

奈美 多分、私たち19時になるとループしちゃうみたいなんです。

理衣 そうっぽいね。

佐田 このペンション以外はどうなってるんだ？

理衣 ここにはラジオもテレビもないんで外のこととはわかりません。

春菜 スマホも充電切れでしかもついてても圏外です。

吉田 麓に降りるには？

佐田 確実に途中で19時を超えるだろうな。

吉田 ムー……。

考え込む一同。照明が切り替わる。

西暦を叫ぶと舞台が赤く染まる。

佐田と吉田を中心に舞台上を動き回る一同。

全員 2023年！

佐田 こっちの世界でも自殺してみよう！

理衣 でも探してくれてるんだよ？
奈美 でも！ 10年以上経ってるし！ もう他の人と……。
吉田 大丈夫ですって！
奈美 勝手なこと言わないで！
吉田 あ、すいません。
奈美 こちらこそすいません。

沈黙。佐田のブツブツは続く。

理衣 あ、平坂さん、灰皿もらっていいですか？
平坂 あ、はい。只今。(灰皿を持つてくる。)
吉田 こんな時にのんきに何しようとしてんですか！
佐田 あ、俺も。
平坂 はい。かしこまりました。
吉田 おお、先輩が現実逃避から復活した！
佐田 頭を働かせるためにはヤニがいるからな。
平坂 お待たせしました。(灰皿を佐田と理衣に渡す。)
佐田 ありがとう。お、君そういえばK O O Lだね？
理衣 あ、はい。
佐田 **Keep Only One Love** 「ひとつの愛を貫く」って意味だ。
理衣 え？ K O O LってかっこいいとかのC O O Lじゃないんですね。
佐田 CじゃなくてKだからね。ちなみに俺の吸ってるマルボロは **Man always remember love because of romance only** 「人は本当の愛を見つめるために恋をする」俺にぴったりだと思わないかい？ ちなみに俺が赤マルにしているのはこいつに他にも都市伝説があるからなんだが。
吉田 興味ありません。
佐田 ですよねー。
吉田 何馬鹿話してるんですか！ 考えましようよちゃんと！
春菜 やっぱりその時計に興味があるんじゃないですか？
奈美 そうだ！ K O O Lだ！
吉田 え？
奈美 吸ってたんです。彼も……。思い出した。彼の手元。時計。この時計、彼の……。
佐田 何？
吉田 どういうことですか？ その時計、あなたいつから持っていました？
奈美 これは……記憶が生まれた日？ だから……えっと。
吉田 2019年。事件から2年後ですか？
奈美 はい。そうです。
佐田 2018年はあなたも他の方と同様、記憶なしにループをしていた。
奈美 記憶ないんでわかんないですけど、多分。

理衣 どういうことですか？

佐田 どう思う？（吉田を見る。）

吉田 関係があるのでしょうか。

佐田 これは……隠しきれないな。

春菜 何か隠してるんですか？

吉田 ……事件から2年後、横田渚は亡くなりました。癌でした。

沈黙。

吉田 だから我々は彼の遺志を継いで意地でもあなた方を見つけよう……。

奈美 ちよつと待って！ どういうこと！ そんな信じられるわけ……。

吉田 思いあたることはないですか？ 癌だと発覚した時、彼はあなたに別れを告げたと言っていました。ひどい別れ方をしたと、後悔していました。

佐田 Keep Only One Love 浮気なんてできない性分だわな。

理衣 嘘……。

奈美 そんな……。バカ……。

吉田 あなたの重荷になりたくなかったですねきつと。

奈美 渚……。

佐田 ここからは推測だが、ここは間違いなく死者と生者の狭間！ 黄泉比良坂！ だから彼はここを通ったんだ！ 黄泉比良坂で迷う彼女に道標を与えて、そして黄泉の国へと消えた。

吉田 ぶっ飛んでますが、そう考えるのが自然なんですかね。

奈美 この時計……。私、最初、気づきもしなかった。これが渚のなんて。

理衣 奈美は悪くないよ。私だって、そんなの覚えてない。

沈黙。

春菜 あのと！ もしかしてお父さんも……。

吉田 安心して。秋吉さんは生きています。……少なくとも2021年、我々がここに来るまでは。でも秋吉さんも後悔していました。ひどい別れ方をしたと。あなたは会えるんですから、ちゃんと会ってあげてくださいね。

春菜 ……お父さん。

金城 一応聞きますけど。

吉田 はい。

金城 僕のこと探してる人っていたりしました？

吉田 ……。（視線を背ける。）

佐田 バイト先の人たちなんかは心配してたぞ？ コンビニだけか？

金城 どうせ、その程度ですよ。

春菜 ご家族はいらっしゃらないんですか？

金城 いないですよ。天涯孤独ってやつですよ？

春菜 そう、なんですか。
理衣 そういえば、ペンションの火事についてなんですけど。
金城 火事？
理衣 現実ではペンションは火事になって燃え尽きていますが、ここではあるものとして存在しています。
佐田 そうだな。
理衣 火事の原因って戻るヒントにならないですかね？
佐田 そうかもな。考えてみるか。
平坂 現実世界の火事の原因はなんだったんです？
佐田 トイレの爆発物から出火。おそらく人為的なものだと思う。
吉田 まあ、火事の犯人がエイリアンだと、完全にお手上げですけど。
平坂 違いますよ！
佐田 もう疑ってないよー。
春菜 あの、ちよつと考えたんですけど。
佐田 お、聞こう！
春菜 私たちがみんな初めてループした時って目の前が真っ暗になりましたよね。
吉田 はい。多分そんな感じでしたね。
春菜 火事の日はずつと違って一瞬真っ赤になったような気がするんです。
佐田 なるほど。
吉田 それでいうと、みんなループした時以外は全部赤くなってましたね。
佐田 待って待って待って。っーことはだ。火事だと目の前真っ赤か。ただのループは真っ黒黒スゲ。つまりみんな戻った時は誰も火事にできなかったんだ。どつかの誰かが、ループする度に、このペンションを燃やしてた！
吉田 そんなことしますかね？
佐田 こうは考えられんか？ そいつには記憶があった。そう、広瀬のように。だがそいつは火事を繰り返した。それが、ループのきっかけだと思っ
ていたからだ！
吉田 なんてそんなことを？
佐田 このループから出たくなかったんじゃないかね？ 金城賢治くん！
金城 な！ 何を言ってる！
佐田 君がループから出たくなないと考えているなら以前君がした、妨害行為も理にかなっている。
吉田 そうか！ 自分だけが記憶を持ってループしたいって思っていれば、私たちがループを脱出する手段を探すのは、邪魔なんですわね！
金城 何を証拠に……。やめてくださいよ。
春菜 そうなんですか？
金城 違うよ。何言ってるんだ。冗談も休み休み言え！
佐田 オカルティの情報網なめんなよ！ 金城！
金城 何だと？

佐田 俺たちはもちろん、行方不明者の身辺調査を行う。そこでわかったんだよ！ お前がここにいる川本春菜にストーカーまがいのことをしていたってことがな！ 予備校を調べてその近くのコンビニでバイトしたりしてたそうじゃないか！

吉田 え？ そんな情報。

佐田 お前はお姫様だからな。オカルト以外のネタは伏せてたんだよ。どうだ？ ここでのお前は特に問題のある行動をしてなかったから黙っておいたが、言い逃れはできないぜ？

金城 ち……違う。俺はそんなことしてないです。

佐田 何度も聞いたぞー。お前ここじゃあ塾講師だの、環境保全家だのウソついてるじゃねえか。健気だねえ。せめてここだけでも川本春菜によく思われたいか！

金城 く……くそつ！ お前らさえ！ お前らさえ来なければ！

吉田 それは自供ととっていいんですかね？

金城 もういいじゃないですか。確か生きてたってさ、死んでるのと一緒なんですよ。

佐田 あ？

金城 だって、きつと、戻ったらバレますもん。

佐田 何を？

金城 (階段の方へ走って行って) その通り！ 僕なんですよね！ このペンションに火つけたの！

吉田 やっぱりあなたが？

理衣 なんです？ そんなこと！

金城 永遠の愛のためですよ。

佐田 永遠の愛？

金城 今のこの美しいまま春菜と僕は一緒にいようと思ったんです。

理衣 そんな下らない理由で……。

金城 下らないですか？ でも僕にとっては全てでした！ 彼女の微笑みだけが！ 僕に生きる力をくれたんです！

吉田 そんな相手に2度も3度も放火するなんてどうかしてますね！

金城 だって最初の日、燃やしたと思ったら燃えてなかったんですもん。だからもう1回やった。そしたらループが始まった。だからこう考えたんです。神様がチャンスをくれたんだって！ 見るだけで幸せだ。僕は一生彼女が学生として勉強している姿を見ていられる。社会になんか出なくていい。夢を持って頑張れるのは今だけだ。だからずっと僕と一緒にいよう！

春菜 変なこと言わないでください！

金城 どーせ僕が戻っても逮捕されんのがオチだ。そうとわかってみすみす戻りますか？ 僕はまたお前らのループを邪魔しますよ？

佐田 そんなもん！ 償え！ 償え！ こんな言い方あれだけどな、世の中にや人殺したって、その罪悪感に苛まれながらそれでも必死に、生きるた

めに生きてる奴もいるんだよ！ 甘えんな！

金城 甘えてなんてこなかった！ ずっと1人で頑張ってきたんだ！ 誰にも認められず、それでも生きてきたんだ！ 成功してる奴らにわかるか！

吉田 (拍手) 賛成ですね。どっかの主人公ヅラしたおじさんこそ現実をみるべきです。

佐田 おい。なんで矛先が俺なんだ。

金城 なめてんのかお前ら！

佐田 なめてるかバカ！ 俺はいつでも本気だ！

金城 とにかく僕は戻らない。ずっとここにいる！

佐田 だめだ！ 全員生還して美談なニュースにするんだ！

吉田 クソみたいな本音が出ましたね。

佐田 とにかく一緒に帰ろう！

金城 僕なんて、僕なんていてもいなくても。

吉田 そう思うなら死ぬ気で何かしてみろって話ですけどね。まあ私としてはそれでだめなら、そういう人は死んでしまった方がいいと思いますけど、あなたの場合はそこまで死ぬ気で何かやってる風には見えないですしね。

金城 これ以上僕を侮辱するな！

吉田 なんでこんなに侮辱の言葉が出てくるのか考えたら私も同じだからなんですよね。同族嫌悪？ 死ぬ気で何かやるなんてそれだけで才能。確かに言えますわ。でもダサいのは嫌ですしねー。

金城 ごちやごちやうるさい！ またここで火つけてやる！（ライターを取り出す。）

春菜 きゃあ。

佐田 吉田！

吉田 はああああああああ。 (レスリングの構えで金城に突進する。)

金城 うわっ！（吉田に押さえつけられる。）

吉田 もし、神がいるのなら、あなた次第では、放火前にだって戻れるかもしれませんよ！（首を絞め、金城を落とす。）

沈黙。

佐田 霊長類最強かお前は。

吉田 てへへろ。(真顔。)

佐田 まあ気絶してくれてよかった。

理衣 強引ですね。

佐田 所詮記者だからな。大したことはできないさ。

吉田 とか言って今絶対自分のこと主人公っぽいつて思ってますよ。

佐田 なんでそーゆーこと言うんだ！ さとりか！ さとりの能力を使ったのか！

吉田 先輩がサトラレなんですよ。

佐田 そんなわけないだろバカ！

吉田 バカって言う方がバカなんです！

佐田 バカって言う方がバカなんですって言う方がバカなんです！

吉田 バカって言う方がバカなんですって言う方がバカなんですって言う方がバカなんです！
がバカなんです！

春菜 (笑う)

佐田 何笑ってんだ！

春菜 お互いをバカって言い合える関係って、なんかいいですよね？

佐田 こいつが生意気なだけだと思うぞ。

春菜 決めました。

吉田 はい？

春菜 お父さんに会ったら思いっきりバカって言ってやります。

吉田 それは、違うんじゃないかしら？

佐田 まあなんだ、お父さんも金城みたいな存在を知ってたから、余計に君のことが心配だったんじゃないか？ それはわかってやれよ。

春菜 ……はい。

佐田 だから君も俺みたいな大人になれるように……。

平坂 (遮って) あの、もう直ぐ夕食の時間なので、準備させていただいてもよろしいですか？

佐田 おー……い！

吉田 まずいです！ またループになっちゃいます！

佐田 どうするよ？

平坂 夕食は？

吉田 夕食の準備どころじゃないです！

平坂 え？

佐田 もう金城の言う通り一生ループする？

吉田 何諦めたようなこと言ってますか！

佐田 じゃあなんか方法があるのー？ そもそもあいつが邪魔してたわけだから、今までやった方法をもう一度試して……。

吉田 でも、そうするしかないですよ……。

奈美 あの、すいません。本当に今思いついた直感なんですけど、時計を進めればいいんだと思います。

理衣 奈美？

佐田 どういうことだ？

奈美 この時計、19時で止まっちゃってます。だからそれを直してあげて、19時の瞬間にそれを持っていけば戻れる……かも！

吉田 どうして、そう思ったんですか？

奈美 金城さんを見て……。あの人は火事のある日に、いや、それより前から、川本さんを想って、固執して時が止まってしまっていました。だからもしかししたら、この時計は「俺を忘れて幸せになれ。」っていう渚からの

メッセージなのかな？ つて。だから時計を進めれば……。

理衣 確かに、あいつの言いそうなことね。

佐田 でも時計を直す？ そんなこと……。

平坂 私、そういうの得意ですよ。

吉田 エイリアン！

平坂 いや、エイリアンじゃないですつて！

佐田 よし！ やってみよう！ さあ！ 早く直すんだ！

平坂 でもお食事が……。

佐田 そんなの後だ！ 優先順位！ 時計！ 一番！

平坂 あ、はい。わかりました。今、道具持ってきましたね。（道具箱を取りに行く。）どこやったかなー。

佐田 なんか、うまくいきそうだな。そんな気がする。

吉田 はい。

理衣 でも。本物のペンションは燃えてしまってるんですよね？ いったい

どこに戻るんでしょうか？

春菜 また病院の前に倒れるんですかね。

佐田 その可能性は高いな。

平坂が道具箱を持って現れる。

吉田 広瀬さん。もう時間がないです。急いで。

奈美 はい。これです。（時計を渡す。）

平坂 （時計を眺めて）これ、あーなるほど、はいはい。ちよつとね。ネジがいかれちゃってただけだから、すぐ直りますよ。（カチャカチャと時計をいじる。）

吉田 エイリアン！

平坂 違いますつて。

佐田 エイドリアン！

平坂 誰ですかそれ。

吉田 今のは、滑りましたね先輩。

佐田 滑ってない！ 滑走しただけだ。目にも留まらぬ早業だったんだ。

吉田 高速で滑らないでください。拾いきれません。

平坂 （奈美に向けて）はい。直りましたよ。

佐田 よしっ！ みんなこれに触るんだ！

理衣 はいっ。

春菜 はいっ。

佐田 吉田！

吉田 はいっ。

佐田 金城を引きずってこい！

吉田 はい。金城を引つ張り時計に触れさせる。（

佐田 エイリアン！
平坂 違いますって。
佐田 お前も触ってる！
平坂 は、はい。

奈美以外時計を囲み円になる。

奈美 私、なぜかわからないですけど、絶対の自信があります。今回、私
ちはループを抜けられる！ だから！

徐々に照明が落ちていく。

理衣 奈美！

奈美 (手を離して) ごめん。理衣。私残る。

理衣 何言ってるの！

吉田 なんてあなたたちは！ 子供ですか！ 言うこと聞いてください！

奈美 渚を置いていけないもん！

理衣 奈美！

吉田 渚さんは亡くなったんです！ もう助からないんですよ！

奈美 まだわかんない！ 私が助ける！

吉田 わがままを言わないでください！

奈美 私、嘘ついた！ 渚なしじゃ時間は進められないよ！

理衣 奈美！ バカ！

佐田 しょうがねえな！（時計から手を離す。）

吉田 先輩？

佐田 あとは頼んだ！

奈美 なんてあなたまで！

吉田 先輩！

佐田 「青いねと言われなくなって、不明な色になるよりも、私はずうっと
青でありたいなあ。」 by さだまさし。

吉田 何バカなこと言ってるんですか！ 先輩！ せんぱーい！！！！

暗転。

○第七幕

2018年「北斗七星」のロビー。

壁の日めくりカレンダーは8月13日を指している。

どこからともなく時計の針の音が聞こえる。

夕方。ロビーの椅子で寝ていた奈美。
ふと目が覚め、顔を上げる。

コーヒーの方に目をやり、口をつける。
飲みながらぼーっと外を眺める理衣。

平坂は時折理衣を気にしながらも、食器を運ぶなど夕食の準備を
進めている。

金城もコーヒーを口につけ、タバコを吸いつつ小説を読んでいる。
そこへ春菜が外からやってくる。

春菜の方を見る理衣。
同様に視線を春菜に送る金城。

春菜 (平坂へ) すいません。
平坂 はい。

春菜 コーヒーいただけますか？

平坂 はい。アイス？ ホット？

春菜 アイスで。

平坂 ミルクとガムシロップは？

春菜 お願いします。

平坂 はい。少々お待ちください。(コーヒーを作りに行く。)

春菜、机に座り、鞆から筆記用具、参考書を取り出し勉強を始める。そこへ、秋吉が2階から降りてきて春菜の近くに座る。

秋吉 はかどってるか？

春菜 まあまあ。

秋吉 今年は受かるといいな。

春菜 一浪すればだいたいのは受かるんだよ。お父さんみたいにバカじゃなければ。(笑う)

秋吉 バカとはなんだバカとは！ お父さんだって英語だけだったら強いぞ！ なんてたって英語は仕事で使ってるからな！

春菜 え？ そうなの？ じゃあ英語教えてよ！ 私苦手ですー。

金城が席を移動して、春菜の近くに来る。

金城 え、偉いですねこんなとこにまで来て勉強なんて。

春菜 あ、はい。浪人生ですからね。

秋吉 勉強してくれなくっちゃ困っちゃいますから。

金城 懐かしいです。受験勉強。

春菜 大変でした？

金城 僕は浪人で旧帝大だったんですけど、浪人の戦いって孤独ですからね。

秋吉 えー！ すごいじゃないですか！
春菜 浪人が孤独ってのはすごいわかります。
秋吉 そうだ！ ここにいる間家庭教師になってもらえばいいんじゃないか？
金城 いえいえ、そんな。

談笑を続ける3人。
それを眺める理衣。そこに奈美が現れる。

奈美 え？ 理衣、あんた昼からずーっとここにいたわけ？
理衣 え？ あ、うん。
奈美 (隣に座りながら) 何してたの？
理衣 うーん。何も。奈美は？
奈美 散歩。……(笑って) 渚とね！

理衣、奈美に抱きつく。

理衣 奈美！
奈美 理衣！

そこへ渚が現れる。
理衣、渚を殴る。

渚 行ってえ！
理衣 奈美を心配させやがってこのやろう！
渚 悪い悪い。
理衣 でも、どうして？
渚 それがさ、ふわっとしか覚えてなくてさ。
奈美 そう、なんかふわっとしてるの。
理衣 ふわっと？
渚 そう、ふわっとなんだよなー。

談笑を続ける3人。
そこへ平坂がコーヒーを持ってくる。

平坂 コーヒーはいかがですか？ 心が落ち着きますよ。
渚 あ、いただきます。
平坂 今宵は、空気が澄んでるのできつと星が綺麗ですよ。
理衣 そうなんですか。
平坂 ええ。当ペンションの名前である北斗七星なんかもくつきりと綺麗に見えますよ。

奈美 へえー。見てみようか。
渚 そうだな。

談笑は続く。徐々に照明が暗くなる。
ペンションの人々は黒布を纏い、天狗の仮面をつけ、次第に天狗へと姿を変え、舞い始める。渚は天狗に扮した後、一度去る。最後に残る奈美。
プロローグのように天狗が周囲を舞っている。
壁の日めくりカレンダーは2117年8月13日を指している。
照明が変わり、夕方。ロビーの椅子で寝ている奈美。
奈美の横には灰皿と吸いかけのタバコ。そこへ渚がやってくる。
渚は自分の腕時計を奈美の隣に置き、奈美の寝顔を見て微笑む。
一度髪を撫で、去ろうとすると腕を奈美に捕まれる。

渚 え？
奈美 バーカ！
渚 どうして？
奈美 バーカバーカバーカ！ 理衣が残してつてくれたの！
渚 え？
奈美 吸いかけのタバコ。
渚 ああ。
奈美 またループに戻ってきた。
渚 なんて？
奈美 なんて黙っていきこうとするんだバカ！
渚 ……ごめん。
奈美 なんてケンカになるとすぐに謝るんだバカ！
渚 え？
奈美 なんて私の重荷になるのが嫌だとか言って病気の事を隠すんだバカ！ そんな奴が浮気なんてするわけじゃないじゃん！ もって2年とはどう言う事だバカ！ 先に言えよ！ 死んでから伝えんじやねえよ！ お前にはもつといいやついる？ いないよバカ！ 私にはあなたしかいないんだ！ バカ！ バカ！ バカ！ バカ！ 死ぬなんて許さない！ 遠くから見守るなんて許さない！ あんたは私と結婚して仲良くおじいちゃんおばあちゃんになって子供と孫に囲まれて死ぬんだバカ！ わかったか！ バカ！
渚 (奈美を抱きしめて) そうだな！ バカだった！ バカだったよ俺！
ごめんな！ 心配かけたな！ 俺、自分勝手だったな！ ごめん！ ごめんなよ！ 俺死ぬよ！ 奈美と結婚して仲良くおじいちゃんおばあちゃんになつて子供と孫に囲まれて死ぬんだ！

抱き合い、泣く2人。

暗転。

○エピローグ

川のせせらぎの音、蟬の鳴き声。

ここは、深い森の中。

照明がぼんやり佐田と吉田を照らす。

佐田と吉田の周りを天狗の面をつけた人々が踊りながら囲む。

佐田と吉田は天狗達には気づいていない。

どこかへ向かおうとする佐田。後ろを歩く吉田。

吉田 先輩！

佐田 ……。

吉田 佐田先輩！

佐田 ……。

吉田 先輩はバカなんですか。

佐田 もう知ってるだろ！ 俺はバカなんだ！

吉田 どうやったんですか？

佐田 どうやったってほどのことでもないさ、ループ現象内で記憶を保つ方法としてわかっていることは、横田の時計と金城の火事だ。

吉田 そうですね。

佐田 そこで1つの仮説を立てた。

吉田 仮説？

佐田 金城の火事はループ内での記憶を保つ方法ではないという仮説だ。

吉田 え？

佐田 確かに、火事のあるなしで俺たちの目の前は真っ暗だったり真っ赤だ

ったりした。だが、金城の野郎、みんなループしようって言った時、最

後時計にも触ってなかったし、火事も起こさなかったら？

吉田 あ！

佐田 なのにあいつには記憶があった。

吉田 確かに！ どうやって再びループに？

佐田 あいつ、タバコ持ってたろ？

吉田 はい？

佐田 ループの記憶保持要因はあいつのタバコだとすれば？

吉田 え？

佐田 推測だが、あのタバコは奴が2017年の火事の直前、つまり臨死の

直前に吸っていたものじゃないか？ だから時計と同じ効力を發揮し

た。

吉田 タバコも時を進めるものとして認識されるってことですか？ そんな

バカな？

佐田 少し突飛かもしれない。だが、もしそう仮定するとつじつまが合うんだ。後はどこにループするかだ！ 横田を救うには、毎日、時計を置くために横田が黄泉比良坂を通り過ぎるその一瞬を狙うしかない。だが、時計は横田が持つてくる。となれば横田より前にループのしようはない。しかし横田より前にループできるものがあるとするれば？

吉田 そんな都合のいいものあったんですか？

佐田 俺たちは2人、あのペンションに放り出された。アホなことに、時計から手を離してしまった平坂もいたな。そして俺たち3人はそこから何度もループを繰り返した。もはや何年経ったかも覚えていない。そんな中見つけたんだ。

吉田 一体何が？

佐田 K O O Lだよ。

吉田 やっぱりタバコですか？

佐田 そうだ。いやあ一途つてのは強いね。

吉田 どういうことですか？

佐田 佐田の所持品であるタバコを偶然にも菊地が事件当日吸っていた。

吉田 なんと。

佐田 吸いかけのタバコは、火事の時間に、その時を止めたんだ。

吉田 じゃあ、そのタバコを見つけて持っていけば、もしかしたら横田よりも前にループできるかもしれないってことですね？

佐田 そう、時計が止まったのは、横田がなくなった時刻。19時。時計の効力で俺たちは19時になるとその少し前に戻らされた。火事の時刻はもつと前。17時。であれば、タバコなら17時前に戻れるかもしれない。横田が時計を置きに来るタイミングにも戻れるかもってことだ。

吉田 おお！

佐田 俺たちは死ぬ気でタバコの吸い殻を探し、計画はうまくいった。

吉田 さすが先輩です！

佐田 だが……。

吉田 まあ、そこもさすが先輩です。

佐田 だから、今度こそ、全員、取り戻す！

吉田 ついていきますよ。私もバカなんです。

佐田 だいぶお前もいい記者になつてきたな。

吉田 ……思つたんですけど、そのループ解消ってタバコの必要あったんですかね？

佐田 え？

吉田 時計の時もそうですけど、変化を求める人間の気持ちがあるループを食い止めてみたいなのつてどうですか？ タバコである必要も時計である必要も火事である必要もなく、ただ思いの強さで決まる。

佐田 非科学的で面白い話だな？ マルボロよろしく「ロマンチックは我に

あり！」だ！

吉田 「我思うゆえに我あり！」です！

佐田 俺の旧友がさ、ヒーローに憧れてたんだよ。バカみたいだろ？

吉田 バカですね。

佐田 男つてのはおっさんになってもヒーローがつくづく好きなんだなあつ
つってな！

吉田 筋金入りのバカですね。

佐田 バカって言う方が、

佐田・吉田 バカなんです！

吉田 ……バカは死なないって言いますもんね。セーンプイ！

佐田 だったら俺たちは不死身だな！

笑う2人。

幕。